

英米文学特論IVA		【単位数】		2単位
授業コード	M2111	科目ナンバリング	開講年度学期	2024年度第1期
担当者氏名	赤松 佳子			
時間割備考				
授業形態(主)	1 講義			
授業形態(副)	2 演習			
担当形態	単独			
研究分野(大学院)	英米文学			
本授業の概要				
本授業では、17世紀イギリスの詩人と呼ばれるジョン・ダンの作品を中心に、英詩を研究する。同時代詩人や後世の詩人の作品との比較を通して、作品を精読・分析し、詩がどのように読まれ、批評されてきたかを考えていく。				
アクティブラーニングの実施内容				
到達目標			対応するディプロマポリシー (1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)	
1	英語で書かれた韻文の読解力を培う。		知識・技能/思考・判断・表現力	
2	英詩への批評眼を身に付け、自分の考えを論じることができる。		知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
3				
4				
5				
成績評価の基準			対応する到達目標の番号	
1	担当発表・意見交換 (20%)		1/2	
2	小レポート (20%)		1/2	
3	学期末レポート (60%)		1/2	
4				
5				
実務経験のある教員による授業科目				
実務経験の授業への活用方法				
日本語以外の言語による授業				
授業予定一覧				
愛をテーマにしたダンの詩を取り上げ、永遠性を表す比喻表現に注目しながら形而上詩の系譜を辿る。				
回				
1 導入—詩人の生涯と主要作品、同時代文人たちの紹介				
2 『唄とソネット』(Songs and Sonnets) の作品講読 1 「唄」(“Song”) 2 種				
3 『唄とソネット』(Songs and Sonnets) の作品講読 2 「おはよう」(“The Good-Morrow”)				
4 『唄とソネット』(Songs and Sonnets) の作品講読 3 「日の出」(“The Sun Rising”)				
5 『唄とソネット』(Songs and Sonnets) の作品講読 4 「聖列加入」(“The Canonization”)				
6 『唄とソネット』(Songs and Sonnets) の作品講読 5 「記念日」(“The Anniversary”)				
7 『唄とソネット』(Songs and Sonnets) の作品講読 6 「別れ(嘆くのを禁じて)」(“A Valediction: Forbidding Mourning”)				
8 宗教詩の作品講読 1 『冠』(La Corona)				
9 宗教詩の作品講読 2 『聖なるソネット(神に捧げる瞑想)』前期				
10 宗教詩の作品講読 3 『聖なるソネット(神に捧げる瞑想)』中期				
11 宗教詩の作品講読 4 『聖なるソネット(神に捧げる瞑想)』後期				
12 宗教詩の作品講読 5 「キリストに捧げる賛歌」(“A Hymn to Christ, at the Author's Last Going into Germany”)				
13 宗教詩の作品講読 6 「病床にあって神、わが神に捧げる賛歌」(“A Hymn to God, My God, in My Sickness”)				
14 評論を読む				
15 まとめ				

試験等
レポート提出
試験のフィードバックの方法
レポートに評価を書いて返却する。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
<p>〈予習〉</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 語句の予習・詩の内容を把握する。日本語訳を試みるのが効果的である。（1時間）</li> <li>2. 詩の朗読を聞いて、音の特徴を掴む。（30分）</li> </ol> <p>〈復習〉</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 予習の時点で不明瞭であり、授業で解決した問題を見直す。（30分）</li> <li>2. 詩の技巧をノートに書き出す。（1時間）</li> </ol>
必携書（教科書販売）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
必携書・参考書（教科書販売以外）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
John Donne, The Complete English Poems 他（資料配付）
オフィスアワー
随時、質問をメール等で受け付ける。
連絡先
akamatsu@m.ndsu.ac.jp
留意事項
本授業を履修する大学院生は、文学批評の知識を深めることに留意して、研究対象への応用力を磨くこと。

英米文学特論IVB		単位数	2単位
授業コード	M2116	科目ナンバリング	開講年度学期
担当者氏名	赤松 佳子		
時間割備考			
授業形態(主)	1 講義		
授業形態(副)	2 演習		
担当形態	単独		
研究分野(大学院)	英米文学		
本授業の概要			
本授業では、19世紀アメリカの女性詩人エミリー・ディキンソンの形而上的な作品を中心に、英詩を研究する。イギリス形而上詩人の作品との比較を通して、作品を精読・分析し、詩がどのように読まれ、批評されてきたかを考えていく。			
アクティブラーニングの実施内容			
到達目標		対応するディプロマポリシー (1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)	
1	英語で書かれた韻文の読解力を培う。	知識・技能/思考・判断・表現力	
2	英詩への批評眼を身に付け、自分の考えを論じることができる。	思考・判断・表現力/主体性	
3			
4			
5			
成績評価の基準		対応する到達目標の番号	
1	担当発表・意見交換 (20%)	1/2	
2	小レポート (20%)	1/2	
3	学期末レポート (60%)	1/2	
4			
5			
実務経験のある教員による授業科目			
実務経験の授業への活用方法			
日本語以外の言語による授業			
授業予定一覧			
南北戦争時における、永遠性を希求するイメジャリーを駆使したディキンソンの詩を取り上げ、現代詩に通じる技法を読み解く。			
回 1 導入—詩人の生涯と主要作品、同時代人たちの紹介 2 自然詩講読 1 (1861 年創作の作品) 3 自然詩講読 2 (1662-63 年創作の作品) 4 自然詩講読 3 (1864-65 年創作の作品) 5 愛の詩講読 1 (1861 年創作の作品) 6 愛の詩講読 2 (1662-63 年創作の作品) 7 愛の詩講読 3 (1864-65 年創作の作品) 8 死を歌う詩 1 (1861 年創作の作品) 9 死を歌う詩 2 (1662 年創作の作品) 10 死を歌う詩 3 (1663 年創作の作品) 11 死を歌う詩 4 (1864-65 年創作の作品) 12 書簡に見る詩の要素 1 (T・W・ヒギンソン宛ての前期の手紙) 13 書簡に見る詩の要素 2 (T・W・ヒギンソン宛ての後期の手紙) 14 評論を読む 15 まとめ			

試験等
16 レポート提出
試験のフィードバックの方法
レポートに評価を書いて返却する。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
<p>〈予習〉</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 語句の予習・詩の内容を把握する。日本語訳を試みるのが効果的である。（1時間）</li> <li>2. 詩の朗読を聞いて、音の特徴を掴む。（30分）</li> </ol> <p>〈復習〉</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 予習の時点で不明瞭であり、授業で解決した問題を見直す。（30分）</li> <li>2. 詩の技巧をノートに書き出す。（1時間）</li> </ol>
必携書（教科書販売）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
必携書・参考書（教科書販売以外）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
The Poems of Emily Dickinson, edited by R. W. Franklin 他（資料配付）
オフィスアワー
随時、メール等で質問を受け付ける。
連絡先
akamatsu@m.ndsu.ac.jp
留意事項
本授業を履修する大学院生は、文学批評の知識を深めることに留意して、研究対象への応用力を磨くこと。

英米文学特論IA		【単位数】		2単位
授業コード	M2121	科目ナンバリング	開講年度学期	2024年度第1期
担当者氏名	新野 緑			
時間割備考				
授業形態(主)	1 講義			
授業形態(副)				
担当形態	単独			
研究分野(大学院)	英米文学			
本授業の概要				
<p>ヴィクトリア朝後期を代表する女性作家Elizabeth GaskellのNorth and Southを精読する。イングランド南部Hampshire州の牧師であった父親が信仰に疑問を抱いて離職し、家庭教師として生計を立てようと北部工業都市Miltonに移住することになったMargaret Haleは、John Thorntonという工場主との出会いを通して、彼が体現する北部工業都市のブルジョワ的価値観と、自身が背負う伝統的な南部の価値観とのギャップに戸惑いながらも、新たな価値観に目覚めていく。労働者と工場主の対立と和解、男性と女性の役割分担の変化といった当時の社会的文化的背景に留意しつつ、同時代の作家ディケンズがシェヘラザードと讃えたギaskellの秀逸な物語構築に関わる様々な技法について考えたい。</p>				
アクティブラーニングの実施内容				
到達目標			対応するディプロマポリシー (1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)	
1	1. ある程度の長さのテキストを原文で読みながら、自分なりに掘り下げるべき問題点を見出す力をつける。		知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
2	2. 先行研究を批判的に読むことで、自身の解釈を深める力を育てる。		知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
3	3. 自分の考えを論理的かつ効果的に表現する力を養う。		知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
4				
5				
成績評価の基準			対応する到達目標の番号	
1	授業への積極的参加 20%		1/2/3	
2	発表 20%		1/2/3	
3	最終レポート60%		1/2/3	
4				
5				
実務経験のある教員による授業科目				
実務経験の授業への活用方法				
日本語以外の言語による授業				
授業予定一覧				
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 作家紹介とGaskell 研究の歴史</li> <li>2. Chapter 1: 従姉妹の結婚</li> <li>3. Chapter 2: 南部の生活</li> <li>4. Chapter 3: プロポーズ</li> <li>5. Chapter 4: 英国国教会</li> <li>6. Chapter 7: 工業都市ミルトン</li> <li>7. Chapter 8: カルチャーショック</li> <li>8. Chapter10: ソーントン氏の履歴</li> <li>9. Chapter 11: 労使の格差</li> <li>10. Chapter13: 労働者のリアルな生活</li> <li>11. Chapter 14: 兄の罪</li> <li>12. Chapter15: ストライキ</li> <li>13. Chapter 16: 母の病</li> <li>14. Chapter 17: 労働者の言い分</li> <li>15. まとめとディスカッション</li> </ol>				

<b>試験等</b> 16週目に期末レポートを提出する
<b>試験のフィードバックの方法</b> manabaや授業を通して適宜フィードバックを行う
<b>準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間</b> （事前学習）単語の細かいニュアンスや歴史的文化的背景が十分に把握できるように調べ、自分なりの解釈や疑問点を持って授業に臨むこと（60分） （事後学習）授業内容について復習し、授業で取り上げられた英語表現や内容を、他者の解釈との比較も交えて確認しておく（30分）
<b>必携書（教科書販売）</b> 書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
<b>必携書・参考書（教科書販売以外）</b> 書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
<必携書> Elizabeth Gaskell, North and South. Penguin Classics. ISBN: 9780140434248（各自で授業開始までに購入のこと） これ以外の参考書については適宜教室で配布、あるいは指示する。
<b>オフィスアワー</b> 随時。授業終了後やメール等に対応する。対面を希望する場合は、事前にメールで連絡して予約してください。
<b>連絡先</b> niino_midori@m.ndsu.ac.jp
<b>留意事項</b> 原文の細かいニュアンスを捉え、独自の解釈が可能な様に、英英辞典などを用いながら十分に予習をして授業に臨んでほしい。 原文に記された事象の背後にある歴史的、文化的事実についても研究書を参照しながら理解を深めておくことが望ましい。 自分の意見や疑問点を積極的にクラスで発言してほしい。 授業で取り上げなかった箇所については各自で読んで、物語の展開を理解しておくこと。

英米文学特論IB		【単位数】		2単位
授業コード	M2126	科目ナンバリング	開講年度学期	2024年度第2期
担当者氏名	新野 緑			
時間割備考				
授業形態(主)	1 講義			
授業形態(副)				
担当形態	単独			
研究分野(大学院)	英米文学			
本授業の概要				
<p>ヴィクトリア朝後期を代表する女性作家Elizabeth GaskellのNorth and Southを精読する。イングランド南部Hampshire州の牧師であった父親が信仰に疑問を抱いて離職し、家庭教師として生計を立てようと北部工業都市Miltonに移住することになったMargaret Haleは、John Thorntonという工場主との出会いを通して、彼が体現する北部工業都市のブルジョワ的価値観と、自身が背負う伝統的な南部の価値観とのギャップに戸惑いながらも、新たな価値観に目覚めていく。労働者と工場主の対立と和解、男性と女性の役割分担の変化といった当時の社会的文化的背景に留意しつつ、同時代の作家ディケンズがシェヘラザードと讃えたギaskellの秀逸な語りの技法を考えたい。ギaskell文学の特質を深く理解するとともに、先行研究の押さえ方や作品解釈といった文学研究の基本的な方法を確認し、自身の研究に応用する力を養う。2期は後半部分を読む。</p>				
アクティブラーニングの実施内容				
到達目標			対応するディプロマポリシー (1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)	
1	1. ある程度の長さのテキストを原文で読みながら、自分なりに掘り下げるべき問題点を見出す力をつける。		知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
2	2. 先行研究を批判的に読むことで、自身の解釈を深める力を育てる。		知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
3	3. 自分の考えを論理的かつ効果的に表現する力を養う。		知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
4				
5				
成績評価の基準			対応する到達目標の番号	
1	授業への積極的参加 20%		1/2/3	
2	発表 20%		1/2/3	
3	最終レポート60%		1/2/3	
4				
5				
実務経験のある教員による授業科目				
実務経験の授業への活用方法				
日本語以外の言語による授業				
授業予定一覧				
<ol style="list-style-type: none"> <li>前期レポートのフィードバックと、夏休みの課題部分に関するディスカッション</li> <li>Chapter 26, 27: ソートンの愛</li> <li>Chapter 28: ストライキの終結</li> <li>Chapter 29, 30: 兄の帰還</li> <li>Chapter 31, 32: 事件</li> <li>Chapter 33, 34: 疑惑</li> <li>Chapter 35, 36: 労働組合</li> <li>Chapter 37, 38: 誤解</li> <li>Chapter 39, 40: 和解</li> <li>Chapter 41, 42: 父の死</li> <li>Chapter 43, 44: ロンドンへ</li> <li>Chapter 45, 46: 帰郷</li> <li>Chapter 47, 48: ベル氏の病</li> <li>Chapter 49, 50: ミルトンの変化</li> <li>Chapter 51, 52: 再会</li> </ol>				

試験等
16週目に期末レポートを提出する
試験のフィードバックの方法
授業やmanabaを通して適宜フィードバックを行う
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
（事前学習）単語の細かいニュアンスや歴史的文化的背景が十分に把握できるように調べ、自分なりの解釈や疑問点を持って授業に臨むこと（60分） （事後学習）授業内容について復習し、授業で取り上げられた英語表現や内容を、他者の解釈との比較も交えて確認しておく（30分）
必携書（教科書販売）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
必携書・参考書（教科書販売以外）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
<p>&lt;必携書&gt;Elizabeth Gaskell, North and South. Penguin Classics. ISBN: 9780140434248（ただし1期にすでに購入している場合は、新たに購入する必要はありません）</p> <p>その他必要な参考書については授業中に適宜紹介、配布する。</p>
オフィスアワー
随時。授業終了後やメール等で受け付ける。対面を希望する場合は、以下のアドレスに事前に連絡し、予約してください。
連絡先
niino_midori@m.ndsu.ac.jp
留意事項
<p>原文の細かいニュアンスを捉え、独自の解釈が可能な様に、英英辞典などを用いながら十分に予習をして授業に臨んでほしい。</p> <p>自分の意見や疑問点を積極的にクラスで発言してほしい。</p> <p>1期の「イギリス文学特論Ia」で取り上げた部分については、第1回授業で説明するが、可能な限り1期のこの授業も履修していることが望ましい。</p> <p>授業中に取り上げなかった箇所については各自で読んで、物語の展開を理解しておくこと。</p>

英米文学演習A		【単位数】		2単位	
授業コード	M2141	科目ナンバリング		開講年度学期	2024年度第1期
担当者氏名	新野 緑				
時間割備考					
授業形態(主)	2 演習				
授業形態(副)					
担当形態	単独				
研究分野(大学院)	英米文学				
本授業の概要					
イギリス小説を中心に、修士論文の課題の設定、受講生が選んだ作品やテーマに則した先行研究の洗い出し、さらに文献を批判的に読んで、自身の作品解釈と比較しつつ考察を深めていく方法を学ぶ。また、論文執筆に必要な様式についてのルールを踏まえて、先行研究を活用しつつ自身の考えを論理的に構成する方法を身につける。					
アクティブラーニングの実施内容					
到達目標				対応するディプロマポリシー (1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)	
1	1. イギリス小説について独自の視点で適切な課題を設定できる。			知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
2	2. 論文執筆に必要な様式や、論理的な論文構築のための方法を理解し、それを実践できる。			知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
3	3. 文学研究に関する様々なアプローチの方法を理解している。			知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
4	4. 必要な先行研究を的確に探し、それを批判的に評価できる。			知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
5					
成績評価の基準				対応する到達目標の番号	
1	授業の積極的参加 20%			1/2/3/4	
2	口頭発表 20%			1/2/3/4	
3	期末レポート60%			1/2/3/4	
4					
5					
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の授業への活用方法					
日本語以外の言語による授業					
授業予定一覧					
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション</li> <li>2. 卒業論文についての口頭発表</li> <li>3. 論文作成の方法(1): テーマの設定と先行研究の調査</li> <li>4. 論文作成の方法(2): 作品分析と文献の収集</li> <li>5. 論文作成の方法(3): 論文の構成(アウトラインの作成)</li> <li>6. 論文作成の方法(4): 論文の様式</li> <li>7. 修士論文の研究課題</li> <li>8. 主要文献の収集</li> <li>9. アプローチの方法(1): 批評理論講読(テキスト分析)</li> <li>10. アプローチの方法(2): 批評理論講読(cultural materialism)</li> <li>11. アプローチの方法(3): 批評理論講読(ジェンダー論)</li> <li>12. 文献の評価(1): 主要文献の講読(作品)</li> <li>13. 文献の評価(2): 主要文献の講読(歴史)</li> <li>14. 文献の評価(3): 主要文献の講読(語り)</li> <li>15. 主要文献の書評(発表)</li> </ol>					

試験等
第16週にレポートを提出する
試験のフィードバックの方法
manabaなどを通して、適宜フィードバックを行う。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
<p>&lt;事前学習&gt; 修士論文の執筆を視野に入れながら、取り扱う作家、作品、テーマなどを具体的に絞り込み、自身の選んだ作家、作品、テーマに関連する必要文献のリサーチを行うとともに、文学研究の基本的な方法を意識しつつ文献を読む（60分）</p> <p>&lt;事後学習&gt; 授業で得た知識や与えられたコメントを自分なりに消化し、修士論文の構想を固め、執筆する。（60分）</p>
必携書（教科書販売）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
必携書・参考書（教科書販売以外）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
<p>&lt;必携書&gt; MLA Handbook 9th Edition. Modern Language Association of America, 2021. ISBN-10 : 1603293515 ISBN-13 : 978-1603293518（受講者は各自購入のこと）</p> <p>その他、批評理論についての必要文献と主要文献については受講生の選んだテーマに則したものを選んで、適宜プリント等を配布する。</p>
オフィスアワー
随時。授業の前後やメール等で質問、相談があれば受け付ける。対面での相談を希望する場合は事前にメールで予約を取ってほしい。
連絡先
niino_midori@m.ndsu.ac.jp
留意事項
<p>授業で学んだ論文執筆の手順を、的確に実践できる様に、自主的に研究を進めるとともに、疑問点や問題点が出てきたら、積極的に質問をして、早期に解決できるようにしてほしい。</p> <p>研究対象のテキストの講読や解釈の準備を余裕を持って十分に行うこと。</p>

英米文学演習B		【単位数】		2単位
授業コード	M2146	科目ナンバリング	開講年度学期	2024年度第2期
担当者氏名	新野 緑			
時間割備考				
授業形態(主)	2 演習			
授業形態(副)				
担当形態	単独			
研究分野(大学院)	英米文学			
本授業の概要				
I期に引き続き、イギリス小説を中心に、受講生が選んだ修士論文の作品やテーマについて、収集した文献との対話を通して独自の解釈を深め、論文執筆のルールに則って、論理的かつ説得的に論を構築、展開する方法を身につける。				
アクティブラーニングの実施内容				
到達目標			対応するディプロマポリシー (1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)	
1	1. イギリス小説について独自の視点で適切な課題を設定できる。		知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
2	2. 論文執筆に必要な様式や、論理的な論文構築のための方法を理解し、それを実践できる。		知識・技能/思考・判断・表現力	
3	3. 必要な先行研究を批判的に評価して、独自の解釈を効果的に提示できる。		知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
4	4. 自身の解釈を論理的、説得的に構築し、英文でまとめることができる。		知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
5				
成績評価の基準			対応する到達目標の番号	
1	授業の積極的参加 30%		1/2/3/4	
2	口頭発表 20%		1/2/3/4	
3	期末レポート50%		1/2/3/4	
4				
5				
実務経験のある教員による授業科目				
実務経験の授業への活用方法				
日本語以外の言語による授業				
授業予定一覧				
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. I期のレポートのフィードバックとディスカッション</li> <li>2. 参考文献表の作成 (仮)</li> <li>3. アウトラインの作成</li> <li>4. 第一回中間発表</li> <li>5. 英語論文の文体</li> <li>6. 引用の方法</li> <li>7. 第2回中間発表</li> <li>8. 分析結果の吟味</li> <li>9. 主要参考文献の評価</li> <li>10. 第3回中間発表</li> <li>11. 序論</li> <li>12. 結論</li> <li>13. 論文全体の見直し</li> <li>14. 英文要旨の書き方</li> <li>15. まとめ</li> </ol>				

試験等
第16週に期末レポートを提出する
試験のフィードバックの方法
manabaなどを通して、適宜フィードバックと行う
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
<p>&lt;事前学習&gt; 修士論文の執筆を視野に入れながら、取り扱う作家、作品、テーマなどを具体的に絞り込み、自身の選んだ作家、作品、テーマに関連する必要文献のサーチを行うとともに、文学研究の基本的な方法を意識しつつ文献を読み、論文を構築する（60分）</p> <p>&lt;事後学習&gt; 授業で得た知識や与えられたコメントを自分なりに消化し、修士論文の構想を固め、執筆する。（60分）</p>
必携書（教科書販売）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
必携書・参考書（教科書販売以外）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
<p>&lt;必携書&gt; MLA Handbook 9th Edition. Modern Language Association of America, 2021. ISBN-10 : 1603293515 ISBN-13 : 978-1603293518（受講者は各自購入のこと。ただし「英米文学演習A」の受講者は同じテキストなので新たに購入する必要はない）</p> <p>その他、主要文献については受講生の選んだテーマに則したものを選び、プリント等を配布する</p>
オフィスアワー
随時。授業の前後やメール等で質問、相談を受け付ける。対面での相談を希望する場合は、事前にメールで予約してほしい。
連絡先
niino_midori@m.ndsu.ac.jp
留意事項
<p>1期の「英米文学演習A」の授業を受講していることが望ましい。</p> <p>授業で学んだ論文執筆の手順を、的確に実践できる様に、自主的に研究を進めるとともに、疑問点や問題点が出てきたら、積極的に質問をして、早期に解決できるようにしてほしい。</p> <p>研究対象のテキストの読解や解釈を余裕を持って十分に行うこと。</p>

英米文学特論VA		単位数		2単位	
授業コード	M2221	科目ナンバリング	開講年度学期	2024年度第1期	
担当者氏名	里内 克巳				
時間割備考					
授業形態(主)	1 講義				
授業形態(副)					
担当形態	単独				
研究分野(大学院)	英米文学				
本授業の概要					
<p>アメリカの詩人Emily Dickinson(1830-86)の詩を鑑賞し、作品としての特徴や、その背後にある文化的・歴史的背景を理解する。現在最も入手しやすいディキンソン詩の対訳本と、批評家Helen Vendlerによるアンソロジーとを併用し、英詩に親しんでいない受講生でも無理なく入っていける授業を行いたい。まず上記2冊に共通して取り上げられている詩31編を対象に、日本語による注釈と訳、そして英語による批評的コメントを参照しつつ、受講者が1編ずつ丁寧に解説を試みる発表作業を授業の軸とする(1回の授業につき3編を扱う予定)。余裕があれば、アンソロジー所収の詩から気に入ったものを受講生が選び、発表するという形で更に読み進める。</p>					
アクティブラーニングの実施内容		発見学習			
到達目標			対応するディプロマポリシー (1知識・技能/2思考・判断・表現力/3主体性)		
1	英語で書かれた詩作品を読み、スタイルやレトリックなどの工夫について説明できる。		思考・判断・表現力/主体性		
2	作品が書かれた伝記的・歴史的な背景について説明できる。		知識・技能/主体性		
3	作品の内容や、それを読んで感じたこと・考えたことを、分かりやすく他の人に伝え、共有することができる。		思考・判断・表現力/主体性		
4					
5					
成績評価の基準			対応する到達目標の番号		
1	平常点(80%) 平常点とは、発表など授業への参加・取り組みの仕方を総合したものである。		1/2/3		
2	学期末レポート(20%) レポートについては、授業が半分まで進んだ6月に詳細を通知するが、授業での学びを振り返ると共に、自身で調べ考察したことを盛り込むようなエッセイ・ライティング(日本語ないしは英語)の課題となる予定である。		1/2/3		
3					
4					
5					
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の授業への活用方法					
日本語以外の言語による授業					
授業予定一覧					
第1回 インTRODクシヨン *以下の回ではジョンソン番詩集の番号を示す					
第2回 76, 126, 131番(発表とディスカッション・講義)					
第3回 165, 214, 216番(発表とディスカッション・講義)					
第4回 228, 249, 254番(発表とディスカッション・講義)					
第5回 258, 280, 303番(発表とディスカッション・講義)					
第6回 324, 328, 333番(発表とディスカッション・講義)					
第7回 338, 341, 441番(発表とディスカッション・講義)					
第8回 448, 449, 465番(発表とディスカッション・講義)					
第9回 501, 585, 712番(発表とディスカッション・講義)					
第10回 883, 986, 1052番(発表とディスカッション・講義)					
第11回 1068, 1129番(発表とディスカッション・講義)					
第12回 1275, 1540番(発表とディスカッション・講義)					
第13回 追加演習①					
第14回 追加演習②					
第15回 振り返り(講義)					

試験等
試験のフィードバックの方法
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間 毎回の授業では、指定された作品をあらかじめきちんと読み、自分なりに消化したうえで授業に臨むのが大前提となる。英語を読み慣れた受講者でも、1回の授業について4時間程度の準備時間をかけ、じっくりと読んできてほしいので、毎週の授業外での学習計画をよく考えて立てる必要がある。
必携書（教科書販売） 書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
必携書・参考書（教科書販売以外） 書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
（必携書）各自で購入・入手してください。 亀井俊介編『対訳ディキンソン詩集 アメリカ詩人選（3）』岩波文庫 ISBN: 4-00-323101-5  （参考書）授業時に案内しますので、事前購入の必要はありません。 Helen Vendler, _Dickinson: Selected Poems and Commentaries_ (Belknap Press) ISBN-10 : 0674066383; ISBN-13 : 978-0674066380
オフィスアワー 授業の終了後、またはメールで質問を受け付ける。
連絡先 satouchi-k.hmt@osaka-u.ac.jp
留意事項

英米文学特論VB		【単位数】		2単位
授業コード	M2226	科目ナンバリング	開講年度学期	2024年度第2期
担当者氏名	里内 克巳			
時間割備考				
授業形態(主)	1 講義			
授業形態(副)				
担当形態	単独			
研究分野(大学院)	英米文学			
本授業の概要				
〈ハーレム・ルネサンス〉と呼ばれる1920年代に起こった文化運動を中心に、アフリカ系アメリカ文学への理解を深める作業を行なう。授業では、白人と黒人の混血である女性の遍歴を描いた Nella Larsen (1891-1964) の自伝的小説『Quicksand』(1928) を精読し、受講者と議論を行っていく。				
アクティブラーニングの実施内容		発見学習		
到達目標				対応するディプロマポリシー (1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)
1	アフリカ系アメリカ人の歴史について概略を説明できる。		知識・技能/主体性	
2	アフリカ系アメリカ文学・文化の特徴(特に20世紀前半)について説明できる。		知識・技能/主体性	
3	英語で書かれた様々なタイプの文学作品を分析し、文体の特徴・叙述の進め方・レトリック上の工夫などについて具体的に説明できる。		思考・判断・表現力/主体性	
4				
5				
成績評価の基準				対応する到達目標の番号
1	平常点(80%) 平常点とは、発表など授業への参加・取り組みの仕方を総合したものである。		1/2/3	
2	学期末レポート(20%) レポートについては、授業が半分まで進んだ12月に詳細を通知するが、授業での学びを振り返ると共に、自身で調べ考察したことを盛り込むようなエッセイ・ライティング(日本語ないしは英語)の課題となる予定である。		1/2/3	
3				
4				
5				
実務経験のある教員による授業科目				
実務経験の授業への活用方法				
日本語以外の言語による授業				
授業予定一覧				
第1回 インTRODククション				
第2回 Quicksand ① 解説とディスカッション				
第3回 Quicksand ② 解説とディスカッション				
第4回 Quicksand ③ 解説とディスカッション				
第5回 Quicksand ④ 解説とディスカッション				
第6回 Quicksand ⑤ 解説とディスカッション				
第7回 Quicksand ⑥ 解説とディスカッション				
第8回 Quicksand ⑦ 解説とディスカッション				
第9回 Quicksand ⑧ 解説とディスカッション				
第10回 Quicksand ⑨ 解説とディスカッション				
第11回 Quicksand ⑩ 解説とディスカッション				
第12回 Quicksand ⑪ 解説とディスカッション				
第13回 Quicksand ⑫ 解説とディスカッション				
第14回 Quicksand ⑬ 解説とディスカッション				
第15回 振り返り(講義)				

試験等
試験のフィードバックの方法
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間 毎回の授業では、指定された作品をあらかじめきちんと読み、自分なりに消化したうえで授業に臨むのが大前提となる。英語を読み慣れた受講者でも、1回の授業について4時間程度の準備時間をかけ、じっくりと読んできてほしいので、毎週の授業外での学習計画をよく考えて立てる必要がある。
必携書（教科書販売） 書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
必携書・参考書（教科書販売以外） 書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
（必携書） Larsen, Nella. The Complete Fiction of Nella Larsen, Anchor Books, 2001. ISBN-13: 978-0-385-72100-4  （参考書） ネラ・ラーセン（作）、鶴殿えりか（訳）、『パッシング/ 流砂にのまれて』（みすず書房、2022年）
オフィスアワー 授業終了後、またはメールにより質問を受け付ける。
連絡先 satouchi-k.hmt@osaka-u.ac.jp
留意事項

英米文学特論IIA		単位数	2単位
授業コード	M2231	科目ナンバリング	開講年度学期
担当者氏名	David Ramsey		
時間割備考			
授業形態(主)	1 講義		
授業形態(副)			
担当形態	単独		
研究分野(大学院)	英米文学		
本授業の概要			
This course will provide an introduction to the research on and studies and discourses of love. Our class will involve approaches from the hard sciences (such as brain research), soft sciences (such as anthropology and psychology), and humanities (literature, art, music, and film). The first semester will focus on approaches indicated by our primary text, Helen Fisher's Why We Love.			
アクティブラーニングの実施内容		グループ・ディスカッション	
到達目標		対応するディプロマポリシー (1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)	
1	Students will be able to recognize and explain in English important theoretical approaches to love.	知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
2	Students will be able to apply in English important theoretical approaches to love and its demonstrations in literature, art, music, film, and other cultural products.	知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
3			
4			
5			
成績評価の基準		対応する到達目標の番号	
1	Active class participation (30%)	1/2	
2	Weekly presentations and reports (40%)	1/2	
3	Final 15-page essay (30%)	1/2	
4			
5			
実務経験のある教員による授業科目			
実務経験の授業への活用方法			
日本語以外の言語による授業		All instruction and materials are in English.	
授業予定一覧			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Introduction to research on and theories of love; Chapter 1A "Being in Love" A</li> <li>2. Critical terms and methods; Chapter 1B "Being in Love" B</li> <li>3. Art Project 1; Chapter 2 "Love Among the Animals"</li> <li>4. Chapter 3 "Scanning the Brain in Love"</li> <li>5. Song Project 1; Chapter 4A "Lust, Romance, and Attachment" A</li> <li>6. Chapter 4B "Lust, Romance, and Attachment" B</li> <li>7. Art Project 2; Chapter 5A "Who We Choose" A</li> <li>8. Chapter 5B "Who We Choose" B</li> <li>9. Song Project 2; Chapter 6A "The Evolution of Romantic Love" A</li> <li>10. Chapter 6B "The Evolution of Romantic Love" B</li> <li>11. Literature Project; Chapter 7A "Rejection, Despair, and Rage" A</li> <li>12. Chapter 7B "Rejection, Despair, and Rage" B</li> <li>13. Film Project; Chapter 8 "Making Romance Last"</li> <li>14. Chapter 9 "The Triumph of Love"</li> <li>15. Final Presentations/Projects</li> </ol>			

試験等
Final 15-page essay due in week 15.
試験のフィードバックの方法
Students will receive feedback during class for weekly reports, presentations. Students will receive feedback on final essay in office consultation.
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
Students must prepare their homework before each class (4 hours reading, 1 hour writing).
必携書（教科書販売）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
Texts will be provided.
必携書・参考書（教科書販売以外）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
Texts will be provided.
オフィスアワー
Tues 12:15-1:00, and by appointment
連絡先
ramsey@m.ndsu.ac.jp
留意事項
Lectures, discussions, presentations, and assignments will all be in English. Students should be actively engaged during lectures and presentations by taking notes. Class activities depend upon students being prepared, so students need to do their reading and prepare their homework ahead of class. If absent, students are responsible to find out what assignments are due.

英米文学特論IIB		単位数		2単位
授業コード	M2236	科目ナンバリング	開講年度学期	2024年度第2期
担当者氏名	David Ramsey			
時間割備考				
授業形態(主)	1 講義			
授業形態(副)				
担当形態	単独			
研究分野(大学院)	英米文学			
本授業の概要				
This course continues our introduction to the research on and studies and discourses of love. Our class will involve approaches from the hard sciences (such as brain research), soft sciences (such as anthropology and psychology), and humanities (literature, art, music, and film). The second semester will focus on approaches indicated by our primary texts: Fromm's The Art of Loving, Lewis' The Four Loves, and Sternberg and Sternberg's The New Psychology of Love.				
アクティブラーニングの実施内容		グループ・ディスカッション		
到達目標			対応するディプロマポリシー (1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)	
1	Students will be able to recognize and explain in English important theoretical approaches to love.		知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
2	Students will be able to apply in English important theoretical approaches to love and its demonstrations in literature, art, music, film, and other cultural products.		知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
3				
4				
5				
成績評価の基準			対応する到達目標の番号	
1	Active class participation (30%)		1/2	
2	Weekly presentations and reports (40%)		1/2	
3	Final 15-page essay		1/2	
4				
5				
実務経験のある教員による授業科目				
実務経験の授業への活用方法				
日本語以外の言語による授業			All instruction and materials are in English.	
授業予定一覧				
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Introduction to research on and theories of love; Erich Fromm "Theory of Love" 1A</li> <li>2. Critical terms and methods; Erich Fromm "Theory of Love" 1B</li> <li>3. Art Project 1; Erich Fromm "Practice of Love" 2A</li> <li>4. Eric Fromm "Practice of Love" 2B</li> <li>5. Song Project 1; Lewis "Philia" 1</li> <li>6. Lewis "Philia" 2</li> <li>7. Art Project 2; Lewis "Eros" 1</li> <li>8. Lewis "Eros" 2</li> <li>9. Song Project 2; Lewis "Storge" 1</li> <li>10. Lewis "Storge" 2</li> <li>11. Literature Project; Lewis "Agape" 1</li> <li>12. Lewis "Agape" 2</li> <li>13. Feybesse and Hatfield, "Passionate Love"</li> <li>14. Hendrick and Hendrick, "Styles of Romantic Love"</li> <li>15. Final Presentations/Projects</li> </ol>				

<p><b>試験等</b> Final 15-page essay due in week 15.</p>
<p><b>試験のフィードバックの方法</b> Students will receive feedback during class for weekly reports, presentations. Students will receive feedback on final essay in office consultation.</p>
<p><b>準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間</b> Students must prepare their homework before each class (4 hours reading, 1 hour writing).</p>
<p><b>必携書（教科書販売）</b> 書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考</p>
<p>Texts will be provided.</p>
<p><b>必携書・参考書（教科書販売以外）</b> 書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考</p>
<p>Texts will be provided.</p>
<p><b>オフィスアワー</b> Tues 12:15-1:00, and by appointment</p>
<p><b>連絡先</b> ramsey@m.ndsu.ac.jp</p>
<p><b>留意事項</b> Lectures, discussions, presentations, and assignments will all be in English. Students should be actively engaged during lectures and presentations by taking notes. Class activities depend upon students being prepared, so students need to do their reading and prepare their homework ahead of class. If absent, students are responsible to find out what assignments are due.</p>

英語学言語学特論IA		【単位数】	2単位
授業コード	M2310	科目ナンバリング	開講年度学期 2024年度第1期
担当者氏名	木津 弥佳		
時間割備考			
授業形態(主)	1 講義		
授業形態(副)			
担当形態	単独		
研究分野(大学院)	英語学言語学		
本授業の概要			
<p>本授業では、第二言語語用論 (Second Language Pragmatics) の観点から、外国語指導の現場において、学習者のコミュニケーション能力を高めるために何をどこまで指導すべきかを考察する。今期は、言語相互行為の中で示される認知的スタンス標識 (epistemic stance marker) に関する先行研究を読み、相互行為能力の発達という観点から見た語学指導と語学学習における課題を考える。</p>			
アクティブラーニングの実施内容			
到達目標			対応するディプロマポリシー (1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)
1	当該トピックに関する基本的概念と理論を理解することができる。		知識・技能
2	外国語教育における当該トピックの課題を見つけることができる。		知識・技能/思考・判断・表現力/主体性
3	関連する文献を正しく理解し、発表・論文作成ができる英語力が身についている。		知識・技能/思考・判断・表現力/主体性
4			
5			
成績評価の基準			対応する到達目標の番号
1	授業時の議論への参加 20%		1/2/3
2	発表 30%		1/2/3
3	論文 50%		1/2/3
4			
5			
実務経験のある教員による授業科目			
実務経験の授業への活用方法			
日本語以外の言語による授業			
授業予定一覧			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Introduction</li> <li>2. The grammatical marking of stance</li> <li>3. Doubt and uncertainty 1</li> <li>4. Doubt and uncertainty 2</li> <li>5. Oppositional talk and the acquisition of modality 1</li> <li>6. Oppositional talk and the acquisition of modality 2</li> <li>7. 'I think' as an English modal particle 1</li> <li>8. 'I think' as an English modal particle 2</li> <li>9. 'I think' and 'I don't know' in English as lingua franca 1</li> <li>10. 'I think' and 'I don't know' in English as lingua franca 2</li> <li>11. Stance and engagement 1</li> <li>12. Stance and engagement 2</li> <li>13. Stance in spoken and written university registers 1</li> <li>14. Stance in spoken and written university registers 2</li> <li>15. Epistemic forms by Japanese EFL learners</li> </ol>			

試験等
論文
試験のフィードバックの方法
口頭または書面によるフィードバック
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
テキスト・論文を読んで理解し、発表の準備をする。（3時間）
必携書（教科書販売）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
必携書・参考書（教科書販売以外）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
参考文献・資料は授業中に提示・配布する。
オフィスアワー
By appointment
連絡先
mikakizu@m.ndsu.ac.jp
留意事項
履修希望者は登録前に担当教員と面談すること。

英語学言語学特論IB		【単位数】	2単位
授業コード	M2315	科目ナンバリング	開講年度学期 2024年度第2期
担当者氏名	木津 弥佳		
時間割備考			
授業形態(主)	1 講義		
授業形態(副)			
担当形態	単独		
研究分野(大学院)	英語学言語学		
本授業の概要			
本授業では、中間言語語用論 (Interlanguage Pragmatics) や異文化間語用論 (Cross-cultural Pragmatics) と呼ばれる分野の基礎を学び、外国語指導における語用論の研究・理論と実践について考察する。今期は、『多文化理解の語学教育』(石原・コーエン)を輪読し、語学指導と語学学習における語用論的視点とは何かを考える。			
アクティブラーニングの実施内容			
到達目標			対応するディプロマポリシー (1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)
1	語用論の基礎的な概念と理論が理解できる。		知識・技能
2	外国語教育における語用論的指導についての知識を深めることができる。		知識・技能
3	関連する文献を正しく理解し、発表・論文作成ができる英語力を身につけている。		知識・技能/思考・判断・表現力/主体性
4			
5			
成績評価の基準			対応する到達目標の番号
1	授業時の議論への参加 20%		1/2/3
2	発表 30%		1/2/3
3	論文 50%		1/2/3
4			
5			
実務経験のある教員による授業科目			
実務経験の授業への活用方法			
日本語以外の言語による授業			
授業予定一覧			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Introduction</li> <li>2. 語用論の基礎概念</li> <li>3. 教員の語用論</li> <li>4. 語用論的言語データの収集 1</li> <li>5. 語用論的言語データの収集 2</li> <li>6. 語用論的ことばの使い方 1</li> <li>7. 語用論的ことばの使い方 2</li> <li>8. 学習者の語用論</li> <li>9. 第二言語習得理論と語用論的指導</li> <li>10. 語用論的指導の授業見学と指導例 1</li> <li>11. 語用論的指導の授業見学と指導例 2</li> <li>12. 語用論的指導に向けた教材の改訂</li> <li>13. 語用論的指導のためのカリキュラム編成</li> <li>14. 学習者の自律と語用論的学び</li> <li>15. 語用論的能力の評価</li> </ol>			

試験等
論文
試験のフィードバックの方法
口頭または書面によるフィードバック
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
テキスト・論文を理解しまとめを発表できるように準備する（3時間）
必携書（教科書販売）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
必携書・参考書（教科書販売以外）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
Ishihara, Noriko and Andrew D. Cohen (2010) Teaching and Learning Pragmatics: Where Language and Culture Meet. Routledge. 石原紀子（編著）2015) 『多文化理解の語学教育：語用論的指導への招待』研究社 * その他の参考文献・資料は授業中に提示・配布する。
オフィスアワー
By appointment
連絡先
mikakizu@m.ndsu.ac.jp
留意事項
履修希望者は登録前に担当教員と面談すること。

英語学言語学特論IIA		【単位数】	2単位
授業コード	M2320	科目ナンバリング	開講年度学期 2024年度第1期
担当者氏名	坂口 真理		
時間割備考			
授業形態(主)	1 講義		
授業形態(副)	2 演習		
担当形態	単独		
研究分野(大学院)	英語学言語学		
本授業の概要			
<p>本授業では、意味論と統語論の両領域に関係する数量詞 (quantifier) を言語現象として扱う。  まず、数量詞に関わる基本的な言語現象について述べ、意味論の分野に属する一般化数量詞理論 (generalized quantifier theory) についてのKeenanの初歩的な英語の文献を読み、その後、Reinhart による生成文法理論の枠組みで書かれた統語的な内容の英語文献を精読していく。授業内容についての発表も行う。余裕があれば、英語と他言語 (特に日本語) の数量詞の比較もする。</p>			
アクティブラーニングの実施内容		グループ・ディスカッション	
到達目標			対応するディプロマポリシー (1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)
1	1. 英語の論文の内容を理解し、批判的に読めるようになる。		知識・技能/思考・判断・表現力
2	2. 英語の数量詞の分析方法について、問題意識を持てるようになる。		知識・技能/思考・判断・表現力/主体性
3			
4			
5			
成績評価の基準			対応する到達目標の番号
1	授業中の発表 (30%)		1/2
2	レポート課題 (70%)		1/2
3			
4			
5			
実務経験のある教員による授業科目			
実務経験の授業への活用方法			
日本語以外の言語による授業			
授業予定一覧			
<ol style="list-style-type: none"> <li>Introduction -なぜ数量詞研究はおもしろいか</li> <li>Keenanの論文の精読</li> <li>一般化数量詞理論-集合として考え方</li> <li>全称数量詞と存在数量詞の論理的意味</li> <li>さまざまな数量詞の意味</li> <li>most とmore than half---monotone-increasing quantifiers</li> <li>no とfew --- downward decreasing quantifiers</li> <li>まとめ</li> <li>Reinhart (2007) の精読-生成文法の考え方 Optimal Design</li> <li>Reference-Set Computation</li> <li>Quantifier Scope</li> <li>The Optimistic QR view of the 1970s</li> <li>The Syntactic Freedom with Existential Wide Scope</li> <li>The "Realistic" QR View of the 1990s</li> <li>日本語との比較対照とまとめ</li> </ol>			

<b>試験等</b> 期末レポートを課す。
<b>試験のフィードバックの方法</b> レポートにコメントをして返却する。
<b>準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間</b> 課題を読み質問やコメントができるように予習してください。（週3時間）
<b>必携書（教科書販売）</b> 書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
なし
<b>必携書・参考書（教科書販売以外）</b> 書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
授業で読む文献は、すべて教員が用意する。 1) Keenan, Edward L. (1996) "Semantics of English Quantifiers" 2) Reinhart, Tanya (2006) Interface Strategies: Optimal and Costly Computations  その他レポートを書くために、必要な文献がありましたら、紹介しますので、相談してください。
<b>オフィスアワー</b> 授業中質問するか、manaba もしくは、emailで質問してください。
<b>連絡先</b> maris@m.ndsu.ac.jp
<b>留意事項</b> 履修希望する学生は、登録前に担当教員と面談すること。 本授業を履修する学生は、十分予習をすること。

英語学言語学特論IIB		単位数	2単位
授業コード	M2325	科目ナンバリング	開講年度学期
担当者氏名	坂口 真理		
時間割備考			
授業形態(主)	1 講義		
授業形態(副)			
担当形態	単独		
研究分野(大学院)	英語学言語学		
本授業の概要			
1期で取り上げた数量詞についてのReinhartの文献をさらに読み進めていく。彼女の分析が各受講者の研究テーマとどのような関わりを持つかについて、議論を深めていく。余裕があれば、英語の数量詞と他言語(特に日本語)の数量詞との比較を行う。			
アクティブラーニングの実施内容		グループ・ディスカッション	
到達目標			対応するディプロマポリシー (1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)
1	1. 英語の論文の内容を理解し、批判的に読めるようになる。		知識・技能/思考・判断・表現力/主体性
2	2. 英語の数量詞の分析方法について、問題意識を持てるようになる。		知識・技能/思考・判断・表現力/主体性
3	3. 研究の対象となる資料を収集し、文献で学んだ理論を使って分析ができるようになる。		知識・技能/思考・判断・表現力/主体性
4			
5			
成績評価の基準			対応する到達目標の番号
1	授業中の発表 (30%)		1/2/3
2	レポート課題 (70%)		1/2/3
3			
4			
5			
実務経験のある教員による授業科目			
実務経験の授業への活用方法			
日本語以外の言語による授業			
授業予定一覧			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1期の課題レポートについての受講者による中間発表</li> <li>Reinhart(2007) The Alternative of Wide Scope In Situ</li> <li>Wh-In-Situ</li> <li>Sluicing</li> <li>The Interpretation Problem of Wide Scope In Situ</li> <li>Existential Wide Scope</li> <li>The Semantic Problem with Island-Free QR</li> <li>An Intermediate Summary まとめ</li> <li>Where No QR Is Needed: Choice Functions for Existential Quantifiers</li> <li>Choice Functions and Existential Closure</li> <li>Deriving the Choice-Function Interpretation</li> <li>The Collective-Distributive Distinction</li> <li>Which Indefinites Are interpretable by Choice Functions?</li> <li>Scope-Shift:An Interface Repair Strategy</li> <li>Reinhartの分析の利点と問題点</li> </ol>			

<b>試験等</b> 期末レポートを課す。
<b>試験のフィードバックの方法</b> 希望があれば、レポートを返却する。授業中口頭でfeedback する。
<b>準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間</b> 課題論文を批判的に読み、質問やコメントができるようにする。(週3時間)
<b>必携書（教科書販売）</b> 書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
なし
<b>必携書・参考書（教科書販売以外）</b> 書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
授業で読む文献は、すべて教員が用意する。 1) Keenan, Edward L. (1996) "Semantics of English Quantifiers" 2) Reinhart, Tanya (2006) Interface Strategies: Optimal and Costly Computations.  その他レポートを書くために、必要な文献がありましたら、紹介しますので、相談してください。
<b>オフィスアワー</b> 授業中またはmanabaでしてください。
<b>連絡先</b> maris@m.ndsu.ac.jp
<b>留意事項</b> 履修希望する学生は、登録前に担当教員と面談すること。 本授業を履修する学生は、十分予習をすること。特論IIAと関係する内容となっているので、連続して履修することが望ましい。

英語学言語学特論IIIA		単位数	2単位
授業コード	M2330	科目ナンバリング	開講年度学期
担当者氏名	齋藤 衛		
時間割備考			
授業形態(主)	1 講義		
授業形態(副)			
担当形態	単独		
研究分野(大学院)	英語学言語学		
本授業の概要			
<p>現在追及されている極小主義統語論の背景と概要を学ぶ。1970年代以降の統語論の発展を極小主義統語論に至る過程として捉え直す。また、1990年代からの極小主義理論の展開により明らかにされた新たな研究課題についても理解を深める。前半では、句構造、名詞句の分布、そして移動に関する諸原理に説明を与えるラベル付け理論を中心に議論を進め、後半では、一致や移動の局所性に説明を与えるフェイズ理論をとりあげる。随時、現在の研究課題に対して、日本語研究からどのような貢献ができるかを共に考えていく。</p>			
アクティブラーニングの実施内容		問題解決型学習	
到達目標			対応するディプロマポリシー (1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)
1	極小主義統語論研究の課題とその背景を的確に理解しており、説明できる。		知識・技能/思考・判断・表現力/主体性
2	極小主義統語論の発展に寄与する独創的な研究が遂行できる。		知識・技能/思考・判断・表現力/主体性
3			
4			
5			
成績評価の基準			対応する到達目標の番号
1	授業での議論への貢献 (30%)		1/2
2	レポート (70%)		1/2
3			
4			
5			
実務経験のある教員による授業科目			
実務経験の授業への活用方法			
日本語以外の言語による授業			
授業予定一覧			
<ol style="list-style-type: none"> <li>生成文法：科学としての言語学</li> <li>言語の構造、X' 理論</li> <li>非対格仮説、VP内主語仮説</li> <li>名詞句の分布と格理論</li> <li>最終手段の原理からラベル付け理論へ</li> <li>phi 素性一致を欠く言語におけるラベル付け</li> <li>日英語の類型的特徴の説明 (I)：自由語順と多重主語</li> <li>日英語の類型的特徴の説明 (II)：語彙的複合動詞と名詞修飾節</li> <li>弱主要部としての文法格、theta 規準再考</li> <li>移動と照応形束縛の局所性</li> <li>フェイズ理論に基づく説明</li> <li>局所性に見られる言語間変異</li> <li>一致の有無に言及するフェイズの定義</li> <li>制御の移動分析</li> <li>適正束縛効果などに見られる言語間変異</li> </ol>			

<b>試験等</b>
学期後半にレポートの課題を示す。
<b>試験のフィードバックの方法</b>
レポートにコメントを付して、返却する。
<b>準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間</b>
授業時に紹介する参考文献の熟読。授業では、議論を積み上げながら理論の発展を追っていくので、復習を怠らないこと。（週3時間）
<b>必携書（教科書販売）</b>
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
<b>必携書・参考書（教科書販売以外）</b>
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
プリントを配布する。
<b>オフィスアワー</b>
受講者と相談の上、決定する。
<b>連絡先</b>
saito@m.ndsu.ac.jp
<b>留意事項</b>

英語学言語学特論IIIB		【単位数】	2単位
授業コード	M2335	科目ナンバリング	開講年度学期 2024年度第2期
担当者氏名	齋藤 衛		
時間割備考			
授業形態(主)	1 講義		
授業形態(副)			
担当形態	単独		
研究分野(大学院)	英語学言語学		
本授業の概要			
ヨーロッパを中心に盛んに追及され、大きな成果をあげているカートグラフィー研究をとり上げる。Luigi Rizzi氏、Guglielmo Cinque氏などによる先行研究を概観した上で、日本語を中心とした比較統語論研究からどのような貢献ができるかを共に考えていく。モーダル、補文標識、Wh句の解釈、談話小辞などに焦点をあてて、議論を進める。			
アクティブラーニングの実施内容		問題解決型学習	
到達目標			対応するディプロマポリシー (1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)
1	カートグラフィー研究の課題とその背景を的確に理解しており、説明できる。		知識・技能/思考・判断・表現力/主体性
2	カートグラフィー研究の発展に寄与する独創的な研究が遂行できる。		知識・技能/思考・判断・表現力/主体性
3			
4			
5			
成績評価の基準			対応する到達目標の番号
1	授業での議論への貢献 (30%)		1/2
2	レポート (70%)		1/2
3			
4			
5			
実務経験のある教員による授業科目			
実務経験の授業への活用方法			
日本語以外の言語による授業			
授業予定一覧			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 文周縁部のカートグラフィー</li> <li>2. 副詞句のカートグラフィー</li> <li>3. 補文標識の階層性 (I)</li> <li>4. 補文標識の階層性 (II)</li> <li>5. 主題の位置</li> <li>6. モーダルの階層性</li> <li>7. 談話小辞の階層性</li> <li>8. 選択制限と意味解釈から描くカートグラフィー</li> <li>9. 補文の意味解釈における「発話」</li> <li>10. 補文の意味解釈における「事象」</li> <li>11. 英語における補文の意味解釈に関する諸問題</li> <li>12. Wh疑問文に見られる言語間変異 (I)</li> <li>13. Wh疑問文に見られる言語間変異 (II)</li> <li>14. 焦点としてのWh句</li> <li>15. 総復習</li> </ol>			

<b>試験等</b> 学期後半にレポートの課題を示す。
<b>試験のフィードバックの方法</b> レポートにコメントを付して、返却する。
<b>準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間</b> 授業で示された参考文献の熟読。授業では、議論を積み上げて結論を導いていくので、復習を怠らないこと。（週3時間）
<b>必携書（教科書販売）</b> 書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
<b>必携書・参考書（教科書販売以外）</b> 書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
<b>&lt;参考文献&gt;</b> 遠藤善雄、前田雅子著『カートグラフィー』開拓社、2020。ISBN978-4-7589-1405-5.
<b>オフィスアワー</b> 受講者と相談して決定する。
<b>連絡先</b> saito@m.ndsu.ac.jp
<b>留意事項</b>           

英語学言語学演習A		単位数	2単位
授業コード	M2350	科目ナンバリング	開講年度学期
担当者氏名	齋藤 衛		
時間割備考			
授業形態(主)	2 演習		
授業形態(副)			
担当形態	単独		
研究分野(大学院)	英語学言語学		
本授業の概要			
統語論研究の主要なトピックについて解説し、トピック毎に重要な論文を選択して、履修者にレビューをしてもらう。今期とり上げるトピックとしては、句構造、文法格の認可、多様な複合動詞の形成、省略現象を予定している。			
アクティブラーニングの実施内容		問題解決型学習	
到達目標		対応するディプロマポリシー (1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)	
1	先端的な研究論文を正確に理解できる。	知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
2	優れた論文をさらに発展させるために、建設的なコメントをすることができる。	知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
3			
4			
5			
成績評価の基準		対応する到達目標の番号	
1	授業での発表 (50%)	1/2	
2	論文 (50%)	1/2	
3			
4			
5			
実務経験のある教員による授業科目			
実務経験の授業への活用方法			
日本語以外の言語による授業			
授業予定一覧			
<統語構造と文法格> 1. 文法格の理論 2. 複合動詞文の構造 3. 複合動詞文における文法格 4. 例外的格付与文 5. 格と一致の関係 <統語構造と語形成> 6. 統語的複合動詞と語彙的複合動詞 7. 語彙的複合動詞の統語的派生 <省略現象> 8. 省略現象の概観 9. PF削除分析とLFコピー分析 10. N'省略 11. VP省略とスルーシング 12. 項省略 13. 省略現象における言語間変異 14. VP省略とスルーシング再考 15. 総復習			

試験等
受講生と共に論文のテーマを決定する。
試験のフィードバックの方法
論文にコメントを付して、返却する。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
授業で紹介された参考文献を読みつつ、研究テーマを選択して、研究を進める。（週6時間）
必携書（教科書販売）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
必携書・参考書（教科書販売以外）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
授業時に指定する。
オフィスアワー
受講者と相談の上、決定する。
連絡先
saito@m.ndsu.ac.jp
留意事項

英語学言語学演習B		単位数	2単位
授業コード	M2355	科目ナンバリング	開講年度学期
担当者氏名	齋藤 衛		
時間割備考			
授業形態(主)	2 演習		
授業形態(副)			
担当形態	単独		
研究分野(大学院)	英語学言語学		
本授業の概要			
統語論研究の主要なトピックについて解説し、トピック毎に重要な論文を選択して、履修者にレビューをしてもらう。今期とり上げるトピックとしては、制御、空演算子、適正束縛現象、Wh句の不定名詞句分析、Wh句の演算子分析を予定している。			
アクティブラーニングの実施内容		問題解決型学習	
到達目標		対応するディプロマポリシー (1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)	
1	先端的な研究論文を正確に理解できる。	知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
2	優れた論文をさらに発展させるために、建設的なコメントをすることができる。	知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
3			
4			
5			
成績評価の基準		対応する到達目標の番号	
1	授業での研究発表 (50%)	1/2	
2	論文 (50%)	1/2	
3			
4			
5			
実務経験のある教員による授業科目			
実務経験の授業への活用方法			
日本語以外の言語による授業			
授業予定一覧			
<制御と空演算子> 1. PRO分析の問題点 2. 制御の移動分析 3. 空演算子の移動分析 4. 制御の局所性 5. コピー形成分析 <適正束縛現象> 6. 演算子移動とNP移動の非対称性 7. 連鎖の解釈メカニズム 8. 言語間変異と言語内変異 9. コピー形成分析の可能性 <Wh句の解釈> 10. Wh句の移動分析 11. 変項としての不定名詞句 12. Wh句の不定名詞句分析 13. 演算子としてのWh句 14. 焦点としてのWh句 15. 総復習			

<b>試験等</b> 受講者と相談の上、論文のテーマを決定する。
<b>試験のフィードバックの方法</b> 論文にコメントを付して、返却する。
<b>準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間</b> 授業の復習に加え、自らの研究を積極的に進める。（週6時間）
<b>必携書（教科書販売）</b> 書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
<b>必携書・参考書（教科書販売以外）</b> 書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
授業時に指定する。
<b>オフィスアワー</b> 受講者と相談の上、決定する。
<b>連絡先</b> saito@m.ndsu.ac.jp
<b>留意事項</b>           

英語学言語学演習A		【単位数】	2単位
授業コード	M2360	科目ナンバリング	開講年度学期 2024年度第1期
担当者氏名	木津 弥佳		
時間割備考			
授業形態(主)	2 演習		
授業形態(副)	2 演習		
担当形態	単独		
研究分野(大学院)	英語学言語学		
本授業の概要			
本授業では、受講者が選んだ修士論文の課題に取り組むために必要な研究方法や分析の仕方、発表・論文のまとめ方を学ぶ。扱うテーマとしては、第二言語としての英語または日本語の習得について、第二言語習得理論を基にした研究課題を選び、関連する先行研究を洗い出し、文献を批判的・客観的に読み、深く理解するような訓練を行う。			
アクティブラーニングの実施内容			
到達目標			対応するディプロマポリシー (1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)
1	第二言語習得研究の課題設定を適切に行うことができる。		知識・技能/思考・判断・表現力/主体性
2	必要な方法論を理解し、研究調査を実践することができる。		知識・技能/思考・判断・表現力/主体性
3	英語・日本語で書かれた先行研究を的確に理解し、批判的に読むことができる。		知識・技能/思考・判断・表現力/主体性
4			
5			
成績評価の基準			対応する到達目標の番号
1	授業時の議論への参加 20%		1/2/3
2	発表 30%		1/2/3
3	研究論文 50%		1/2/3
4			
5			
実務経験のある教員による授業科目			
実務経験の授業への活用方法			
日本語以外の言語による授業			
授業予定一覧			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 修士論文について・研究課題(仮)の設定</li> <li>2. 先行研究：文献の収集</li> <li>3. 先行研究：クリティカルに読む</li> <li>4. 先行研究：今後の課題</li> <li>5. 研究課題の設定</li> <li>6. 研究の方法</li> <li>7. 調査・分析の方法</li> <li>8. 研究調査の実施に向けて：計画を立てる</li> <li>9. 研究調査の実施に向けて：パイロットスタディ</li> <li>10. 調査結果の収集</li> <li>11. 調査結果のまとめ</li> <li>12. 先行研究と本研究の分析</li> <li>13. 先行研究と本研究の残された問題</li> <li>14. 論文の構成</li> <li>15. 論文の作成に向けて</li> </ol>			

試験等
研究論文の提出
試験のフィードバックの方法
口頭と書面によるフィードバック
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
テキスト・論文を理解してまとめる（3時間）
必携書（教科書販売）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
必携書・参考書（教科書販売以外）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
Woodrow, Lindy (2020) Doing a Master's Dissertation in TESOL and Applied Linguistics. Routledge. * 受講生の選んだテーマに沿って文献を選択する。その他の資料は授業中に配布する。
オフィスアワー
By appointment
連絡先
mikakizu@m.ndsu.ac.jp
留意事項
履修希望者は登録前に担当教員と面談すること。

英語学言語学演習B		【単位数】		2単位
授業コード	M2365	科目ナンバリング	開講年度学期	2024年度第2期
担当者氏名	木津 弥佳			
時間割備考				
授業形態(主)	2 演習			
授業形態(副)				
担当形態	単独			
研究分野(大学院)	英語学言語学			
本授業の概要				
本授業では、修士論文の執筆と発表・ディスカッションの際に必要な英語理解力と運用能力をさらに高め、受講者の扱う研究課題について深く理解し、わかりやすく説明する訓練を行う。				
アクティブラーニングの実施内容				
到達目標			対応するディプロマポリシー (1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)	
1	研究調査結果をまとめ、適切な方法で分析できる。		知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
2	分析結果を客観的に判断し、建設的に批判することができる。		知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
3	深い英語理解力を持ち、高度な英語運用力を用いて発表・論文作成ができる。		知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
4				
5				
成績評価の基準			対応する到達目標の番号	
1	授業時の議論への参加 20%		1/2/3	
2	発表 30%		1/2/3	
3	研究論文 50%		1/2/3	
4				
5				
実務経験のある教員による授業科目				
実務経験の授業への活用方法				
日本語以外の言語による授業				
授業予定一覧				
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. これまでのまとめと論文内容の検討</li> <li>2. 研究課題・方法・調査のまとめ</li> <li>3. 英語論文の書き方：構文と文体</li> <li>4. 研究結果の分析：量的分析</li> <li>5. 研究結果の分析：質的分析</li> <li>6. 研究課題の確認</li> <li>7. 英語論文の書き方：引用と主張点</li> <li>8. 分析結果に関する議論：量的観点から</li> <li>9. 分析結果に関する議論：質的観点から</li> <li>10. 英語論文の書き方：論理的議論</li> <li>11. 序論</li> <li>12. 結論</li> <li>13. 論文全体の見直し</li> <li>14. 英文要旨の書き方</li> <li>15. まとめ</li> </ol>				

試験等
研究論文の提出
試験のフィードバックの方法
口頭と書面によるフィードバック
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
必携書（教科書販売）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
必携書・参考書（教科書販売以外）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
Woodrow, Lindy (2020) Doing a Master's Dissertation in TESOL and Applied Linguistics. Routledge. * 受講生の選んだテーマに沿って文献を選択する。その他の資料は授業中に配布する。
オフィスアワー
By appointment
連絡先
mikakizu@m.ndsu.ac.jp
留意事項
原則として、1期の英語学言語学演習（木津担当）を履修しておくこと。

国際コミュニケーション特論IA		【単位数】	2単位
授業コード	M2410	科目ナンバリング	開講年度学期 2024年度第1期
担当者氏名	植野 貴志子		
時間割備考			
授業形態(主)	2 演習		
授業形態(副)			
担当形態	単独		
研究分野(大学院)	国際コミュニケーション		
本授業の概要			
社会言語学、語用論、談話分析、および関連分野の主要な文献を講読し、鍵概念や理論的枠組み、方法論に関する基礎的知識を身につける。同時に、各自の研究テーマについて適切な研究方法を見出し、予備的な調査、分析、考察を進める。授業内で発表し、フィードバックを参考にして研究論文にまとめる。			
アクティブラーニングの実施内容		グループ・ディスカッション	
到達目標			対応するディプロマポリシー (1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)
1	社会言語学、語用論、談話分析の鍵概念、理論的枠組み、方法論を理解し、説明することができる。		知識・技能/思考・判断・表現力
2	研究テーマを設定し、適切な方法で独自の研究を進めることができる。		知識・技能/思考・判断・表現力/主体性
3	研究成果を論文としてまとめることができる。		知識・技能/思考・判断・表現力/主体性
4			
5			
成績評価の基準			対応する到達目標の番号
1	ディスカッションへの貢献 (20%)		1/2
2	発表 (30%)		1/2
3	タームペーパー (50%)		1/2/3
4			
5			
実務経験のある教員による授業科目			
実務経験の授業への活用方法			
日本語以外の言語による授業			
授業予定一覧			
1. インTRODクシヨN 2. 文献講読: R. Jakobson (1) 3. 文献講読: R. Jakobson (2) 4. 文献講読: J. L. Austin (1) 5. 文献講読: J. L. Austin (2) 6. データセッション (1) 7. 文献講読: H. P. Grice (1) 8. 文献講読: H. P. Grice (2) 9. データセッション (2) 10. 文献講読: M. M. Bakhtin (1) 11. 文献講読: M. M. Bakhtin (2) 12. 文献講読: R. Scollon (1) 13. 文献講読: R. Scollon (2) 14. 研究発表 (1) 15. 研究発表 (2)			

試験等
試験のフィードバックの方法 授業内あるいは面談でのフィードバック
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間 文献を読み、ハンドアウトにまとめる。各自の研究を進める。（10時間）
必携書（教科書販売） 書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
必携書・参考書（教科書販売以外） 書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
<p>&lt;必携書&gt; Jaworski, Adam, Nikolas Coupland (eds.) 2014. The Discourse Reader. Routledge, 3rd edition (ISBN: 978-0415629492)</p> <p>その他、必要な資料は授業で配布する。</p>
<p>オフィスアワー 質問等は随時メール・対面で受け付ける。</p>
<p>連絡先 uenok@m.ndsu.ac.jp</p>
留意事項

国際コミュニケーション特論IB		【単位数】	2単位
授業コード	M2415	科目ナンバリング	開講年度学期
担当者氏名	植野 貴志子		
時間割備考			
授業形態(主)	2 演習		
授業形態(副)			
担当形態	単独		
研究分野(大学院)	国際コミュニケーション		
本授業の概要			
社会言語学、語用論、談話分析の主要な文献を講読し、鍵概念や理論的枠組み、方法論に関する基礎的知識を身につける。同時に、各自の研究テーマについて適切な研究方法を見出し、予備的な調査、分析、考察を進める。授業内で発表し、フィードバックを参考にして研究論文にまとめる。			
アクティブラーニングの実施内容		グループ・ディスカッション	
到達目標			対応するディプロマポリシー (1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)
1	社会言語学、語用論、談話分析の概念、理論的枠組み、方法論を理解し、説明することができる。		知識・技能/思考・判断・表現力
2	研究テーマを設定して、適切な方法で独自の研究を進めることができる。		知識・技能/思考・判断・表現力/主体性
3	研究成果を論文としてまとめることができる。		知識・技能/思考・判断・表現力/主体性
4			
5			
成績評価の基準			対応する到達目標の番号
1	ディスカッションへの貢献 (20%)		1/2
2	発表 (30%)		1/2
3	タームペーパー (50%)		1/2/3
4			
5			
実務経験のある教員による授業科目			
実務経験の授業への活用方法			
日本語以外の言語による授業			
授業予定一覧			
1. インTRODクシヨN 2. 文献講読: J. P. Gee (1) 3. 文献講読: J. P. Gee (2) 4. 文献講読: W. Labov (1) 5. 文献講読: W. Labov (2) 6. データセッション (1) 7. 文献講読: D. Schiffrin (1) 8. 文献講読: D. Schiffrin (2) 9. データセッション (2) 10. 文献講読: B. Malinowski (1) 11. 文献講読: B. Malinowski (2) 12. 文献講読: P. Bourdieu (1) 13. 文献講読: P. Bourdieu (2) 14. 研究発表 (1) 15. 研究発表 (2)			

試験等
試験のフィードバックの方法 授業内あるいは面談でのフィードバック
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間 文献を読み、ハンドアウトにまとめる。各自の研究を進める。（10時間）
必携書（教科書販売） 書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
必携書・参考書（教科書販売以外） 書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
<必携書> Jaworski, Adam, Nikolas Coupland (eds.) 2014. The Discourse Reader. Routledge, 3rd edition (ISBN: 978-0415629492) その他、必要な資料は授業で配布する。
オフィスアワー 質問等は随時メール・対面で受け付ける。
連絡先 uenok@m.ndsu.ac.jp
留意事項

国際コミュニケーション特論IIA		【単位数	2単位
授業コード	M2420	科目ナンバリング	開講年度学期 2024年度第1期
担当者氏名	桑山 敬己		
時間割備考			
授業形態(主)	1 講義		
授業形態(副)			
担当形態	単独		
研究分野(大学院)	国際コミュニケーション		
本授業の概要			
<p>本授業では海外(特に英語圏)における日本研究について考える。昨年度同様、今年度は前期・後期ともに The Cambridge Companion to Modern Japanese Culture を教科書として使う。同書は序章を含めて全20章から構成されており、現代日本文化の諸側面(たとえば第3章は言語、第4章は家族、第5章は学校)について、特定の専門分野(たとえば社会学)にこだわることなく、各々の側面に関する専門家が執筆している。内容的にも言語的にもレベルは高いので無理をせず、各章につき3コマ分の時間(90分×3)を充てる。つまり前期・後期ともに5章を選択して読む。1コマ目は英語の理解度の確認、2コマ目は特定の章を担当する学生による発表、そして3コマ目は講師による解説とクラス全体の討議を行う。</p>			
アクティブラーニングの実施内容			
到達目標		対応するディプロマポリシー (1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)	
1	海外(特に英語圏)で日本がどのように論じられてきたかを知ることによって、国際コミュニケーションを潤滑に進める能力を身につけることができる。	知識・技能/思考・判断・表現力	
2	講師の専門は文化人類学なので、受講生は主に文化人類学という特定の専門分野から日本を見ることができる。	知識・技能/思考・判断・表現力	
3	発表と討議を通じて大学院生に相応しい研究を自ら行うことを学ぶことができる。	主体性	
4			
5			
成績評価の基準		対応する到達目標の番号	
1	期末レポート(70%)	1/2	
2	授業中の発表と議論への貢献度(30%)	3	
3			
4			
5			
実務経験のある教員による授業科目			
実務経験の授業への活用方法			
日本語以外の言語による授業			
授業予定一覧			
第1回 Japanese Culture: An Overview 1 第2回 Japanese Culture: An Overview 2 第3回 Japanese Culture: An Overview 3 第4回 Chapter 1 Concepts of Japan, Japanese Culture and the Japanese 1 第5回 Chapter 1 Concepts of Japan, Japanese Culture and the Japanese 2 第6回 Chapter 1 Concepts of Japan, Japanese Culture and the Japanese 3 第7回 Chapter 2 Japan's Emic Conceptions 1 第8回 Chapter 2 Japan's Emic Conceptions 2 第9回 Chapter 2 Japan's Emic Conceptions 3 第10回 Chapter 3 Language 1 第11回 Chapter 3 Language 2 第12回 Chapter 3 Language 3 第13回 Chapter 4 Family Culture 1 第14回 Chapter 4 Family Culture 2 第15回 Chapter 4 Family Culture 3			

<p><b>試験等</b> 受講生各自が選択したテーマについて期末レポート（日本語4,000字または英語で相当字数）を作成する。</p>
<p><b>試験のフィードバックの方法</b> 期末レポートにコメントを付けて返却する。</p>
<p><b>準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間</b> 各章は小さな文字で約15頁から20頁で構成されている。発表の有無にかかわらず、すべての受講生が全章に目を通すこと。準備時間は読解力によるが、最低数時間はみておいてほしい。</p>
<p><b>必携書（教科書販売）</b> 書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考</p>
<p> </p>
<p><b>必携書・参考書（教科書販売以外）</b> 書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考</p>
<p>必携書 Yoshio Sugimoto, ed., The Cambridge Companion to Modern Japanese Culture (Cambridge University Press, 2009).</p>
<p><b>オフィスアワー</b> 後日発表</p>
<p><b>連絡先</b> 後日発表</p>
<p><b>留意事項</b> 上記の教科書（必携）は各自で入手すること。</p>

国際コミュニケーション特論IIB		【単位数	2単位
授業コード	M2425	科目ナンバリング	開講年度学期
担当者氏名	桑山 敬己		
時間割備考			
授業形態(主)	1 講義		
授業形態(副)			
担当形態	単独		
研究分野(大学院)	国際コミュニケーション		
本授業の概要			
<p>本授業では海外(特に英語圏)における日本研究について考える。昨年度同様、今年度は前期・後期ともに The Cambridge Companion to Modern Japanese Culture を教科書として使う。同書は序章を含めて全20章から構成されており、現代日本文化の諸側面(たとえば第3章は言語、第4章は家族、第5章は学校)について、特定の専門分野(たとえば社会学)にこだわることなく、各々の側面に関する専門家が執筆している。内容的にも言語的にもレベルは高いので無理をせず、各章につき3コマ分の時間(90分×3)を充てる。つまり前期・後期ともに5章を選択して読む。1コマ目は英語の理解度の確認、2コマ目は特定の章を担当する学生による発表、そして3コマ目は講師による解説とクラス全体の討議を行う。</p>			
アクティブラーニングの実施内容			
到達目標		対応するディプロマポリシー (1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)	
1	海外(特に英語圏)で日本がどのように論じられてきたかを知ることによって、国際コミュニケーションを潤滑に進める能力を身につけることができる。	知識・技能/思考・判断・表現力	
2	講師の専門は文化人類学なので、受講生は主に文化人類学という特定の専門分野から日本を見ることができる。	知識・技能/思考・判断・表現力	
3	発表と討議を通じて大学院生に相応しい研究を自ら行うことを学ぶことができる。	主体性	
4			
5			
成績評価の基準		対応する到達目標の番号	
1	期末レポート(70%)	1/2	
2	授業中の発表と議論への貢献度(30%)	3	
3			
4			
5			
実務経験のある教員による授業科目			
実務経験の授業への活用方法			
日本語以外の言語による授業			
授業予定一覧			
第1回 Chapter 5 School Culture 1 第2回 Chapter 5 School Culture 2 第3回 Chapter 5 School Culture 3 第4回 Chapter 6 Work Culture 1 第5回 Chapter 6 Work Culture 2 第6回 Chapter 6 Work Culture 3 第7回 Chapter 8 Religious Culture 1 第8回 Chapter 8 Religious Culture 2 第9回 Chapter 8 Religious Culture 3 第10回 Chapter 11 Literary Culture 1 第11回 Chapter 11 Literary Culture 2 第12回 Chapter 11 Literary Culture 3 第13回 Chapter 18 Globalization and Cultural Nationalism 1 第14回 Chapter 18 Globalization and Cultural Nationalism 2 第15回 Chapter 18 Globalization and Cultural Nationalism 3			

<b>試験等</b> 各自が選択したテーマについて期末レポート（日本語4,000字または英語で相当字数）を作成する。
<b>試験のフィードバックの方法</b> 期末レポートにコメントを付けて返却する。
<b>準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間</b> 各章は小さな文字で約15頁から20頁で構成されている。発表の有無にかかわらず、すべての受講生が全章に目を通すこと。準備時間は読解力によるが、最低数時間はみておいてほしい。
<b>必携書（教科書販売）</b> 書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
<b>必携書・参考書（教科書販売以外）</b> 書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
必携書 Yoshio Sugimoto, ed., The Cambridge Companion to Modern Japanese Culture (Cambridge University Press, 2009).
<b>オフィスアワー</b> 後日発表
<b>連絡先</b> 後日発表
<b>留意事項</b> 上記の教科書（必携）は各自で入手すること。

国際コミュニケーション特論IIIA		【単位数】	2単位
授業コード	M2430	科目ナンバリング	開講年度学期 2024年度第1期
担当者氏名	Thomas Fast		
時間割備考			
授業形態(主)	1 講義		
授業形態(副)			
担当形態	単独		
研究分野(大学院)	国際コミュニケーション		
本授業の概要			
This course will introduce the concept of global citizenship and global citizenship education (GCED). Students will learn what it means to be "global-minded" as well as what global and local issues we face (e.g. climate change, poverty, immigration, gender equity, population decline, etc). Students will watch videos, read articles and share opinions with the objective of developing concern and compassion. This year's theme will be education. In particular, we will investigate GCED for: Intercultural Understanding, Peace & Diplomacy, Equity & Social Justice, Cultural Appreciation (food, music, film, art, etc).			
アクティブラーニングの実施内容		グループ・ディスカッション	
到達目標			対応するディプロマポリシー (1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)
1	Students will develop knowledge of global issues and solutions.		知識・技能/思考・判断・表現力/主体性
2	Students will learn about global citizenship and develop global competencies such as knowledge, critical and creative thinking, compassion and reflection.		知識・技能/思考・判断・表現力/主体性
3	Students will learn the theories behind the practices of global citizenship.		知識・技能
4			
5			
成績評価の基準			対応する到達目標の番号
1	Weekly discussion and written reflections 60%		1/2/3
2	Oral GCED presentation 20%		3
3	Independent written investigation 20%		1/2/3
4			
5			
実務経験のある教員による授業科目			
実務経験の授業への活用方法			
日本語以外の言語による授業		English	
授業予定一覧			
Week 1: Gaining Self Awareness Week 2: Gaining Self Awareness Week 3: What is a global citizen? What can we do? What needs to be done? Week 4: UNESCO Story Circles Week 5: UNESCO Story Circles Week 6: GCED Part 1: Cultural Appreciation Week 7: GCED Part 1: Cultural Appreciation Week 8: Independent GCED Research Prep Week 9: Independent GCED Research Prep Week 10: GCED Part 2: Developing Compassion Week 11: GCED Part 2: Developing Compassion Week 12: GCED Part 3: Peace Education Week 13: GCED Part 3: Peace Education Week 14: GCED Presentations Week 15: GCED Presentations/Independent Research Papers due			

試験等
Students will be assessed based on their weekly participation in discussions, written reflections and their independent research paper and presentation on GCED.
試験のフィードバックの方法
Feedback will be ongoing through out the semester and in Week 16.
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
Students will be required to put in a minimum of 3 hours of homework per week in preparation for classes and conducting independent research.
必携書（教科書販売）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
必携書・参考書（教科書販売以外）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
Teacher will provide materials. No textbook needed.
オフィスアワー
Office hours will be announced at the first meeting.
連絡先
fast@m.ndsu.ac.jp
留意事項
This is an English only course. Students will be expected to read native level academic texts and discuss them in class.

国際コミュニケーション特論IIIB		単位数	2単位
授業コード	M2435	科目ナンバリング	開講年度学期 2024年度第2期
担当者氏名	Thomas Fast		
時間割備考			
授業形態(主)	1 講義		
授業形態(副)			
担当形態	単独		
研究分野(大学院)	国際コミュニケーション		
本授業の概要			
Students will get an introduction to the theories and current best practices in Foreign Lanuage Education (FLE) including: Inquiry-based Learning, fostering global competencies in students, use of digital tools (e.g. COIL) etc. They will also learn how to apply these theories and practices to their own learning and teaching situations.			
アクティブラーニングの実施内容		グループ・ディスカッション	
到達目標		対応するディプロマポリシー (1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)	
1	Students are familiar with the recommended Foreign Language Education (FLE) methodologies in practice today.	知識・技能/思考・判断・表現力	
2	Students understand the theories behind FLE methodologies adn how to apply them to a classroom setting.	知識・技能/思考・判断・表現力	
3	Students are able to select FLE methods for their own current or future learning situations.	知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
4			
5			
成績評価の基準		対応する到達目標の番号	
1	Weekly written reflections and discussions 60%	1/2	
2	Written investigation of FLE methodologies 20%	1/2/3	
3	FLE Methodology Presentation 20%	1/2/3	
4			
5			
実務経験のある教員による授業科目			
実務経験の授業への活用方法			
日本語以外の言語による授業		English	
授業予定一覧			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Introduction: FLE Methodologies II</li> <li>2. Teaching English in English</li> <li>3. Methodologies: Inquiry-based, student-Centered Learning</li> <li>4. Case Study: World Heritage</li> <li>5. Case Study: World Heritage</li> <li>6. What: Teaching Global Skills</li> <li>7. How: Global Ed</li> <li>8. Case Study: Theory of Knowledge</li> <li>9. Case Study: Theory of Knowledge</li> <li>10. Presenting FLE Independent Research</li> <li>11. What: Digital Skills</li> <li>12. How: COIL</li> <li>13. Case Study: Story Circles</li> <li>14. Case Study: Story Circles</li> <li>15. Summary and Final Assessment</li> </ol>			

<p><b>試験等</b></p> <p>Overall assessment will be determined by weekly written reflections and discussions, in addition to the writing and presentation of an independent investigation.</p>
<p><b>試験のフィードバックの方法</b></p> <p>Feedback will be ongoing and provided at the final lesson (week 16).</p>
<p><b>準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間</b></p> <p>Students will spend a minimum of 3 hours a week on assigned readings and independent research related to the class.</p>
<p><b>必携書（教科書販売）</b></p> <p>書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考</p>
<p><b>必携書・参考書（教科書販売以外）</b></p> <p>書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考</p>
<p>Readings will be provided by the professor. No textbook required.</p>
<p><b>オフィスアワー</b></p> <p>Office hours will be announced in class.</p>
<p><b>連絡先</b></p> <p>fast@m.ndsu.ac.jp</p>
<p><b>留意事項</b></p> <p>This is an English only course. Students will be expected to read native level academic texts and discuss them in class.</p>

国際コミュニケーション演習A		【単位数】	2単位
授業コード	M2450	科目ナンバリング	開講年度学期 2024年度第1期
担当者氏名	Thomas Fast		
時間割備考			
授業形態(主)	2 演習		
授業形態(副)			
担当形態	単独		
研究分野(大学院)	国際コミュニケーション		
本授業の概要			
この授業は、異文化理解と国際コミュニケーションに関するテーマに関し、社会学の手法を用いて研究を遂行するための基礎を修得することを目的とする。社会学の中で用いられる調査方法を把握し、具体的な研究計画を立案し、実施に向けた作業を行う。			
アクティブラーニングの実施内容			
到達目標			対応するディプロマポリシー (1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)
1	研究テーマを設定し、調査計画を立案・実施するために必要なスキルを修得することができる。		知識・技能/思考・判断・表現力/主体性
2			
3			
4			
5			
成績評価の基準			対応する到達目標の番号
1	授業での発表 (20%)		1
2	タームペーパー (80%)		1
3			
4			
5			
実務経験のある教員による授業科目			
実務経験の授業への活用方法			
日本語以外の言語による授業			
授業予定一覧			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. インTRODクシヨN</li> <li>2. 研究調査方法について</li> <li>3. 参与観察</li> <li>4. フィールドノートの技法</li> <li>5. 写真観察法</li> <li>6. インタビューの技法</li> <li>7. メディアの活用</li> <li>8. 研究・調査をめぐる倫理的問題</li> <li>9. 研究計画の立案</li> <li>10. 調査地の選定</li> <li>11. 調査対象の選別とアプローチ</li> <li>12. 依頼状・コンセントフォームの作成</li> <li>13. 予備調査の立案・実施</li> <li>14. 研究計画の完成</li> <li>15. まとめ</li> </ol>			

試験等
試験のフィードバックの方法
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間 指定された論文・図書のまとめ（3時間）
必携書（教科書販売） 書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
必携書・参考書（教科書販売以外） 書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
適宜配布
オフィスアワー By appointment
連絡先 fast@m.ndsu.ac.jp
留意事項 9月にシラバスがアップデートされるので確認すること

国際コミュニケーション演習A		単位数	2単位
授業コード	M2451	科目ナンバリング	開講年度学期 2024年度第1期
担当者氏名	桑山 敬己		
時間割備考			
授業形態(主)	2 演習		
授業形態(副)			
担当形態	単独		
研究分野(大学院)	国際コミュニケーション		
本授業の概要			
受講生は修士論文作成に向けて文献調査と現地調査(フィールドワーク)を行い、教室で進捗状況を報告する。教員はそれに対して適切なアドバイスを与えるとともに、可能ならばゼミ全体で現地調査を行う。			
アクティブラーニングの実施内容			
到達目標		対応するディプロマポリシー (1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)	
1	修士論文作成のための知識と技法を身につけることができる。	知識・技能/思考・判断・表現力	
2	設定したテーマについて自ら調べることができる。	主体性	
3			
4			
5			
成績評価の基準		対応する到達目標の番号	
1	期末レポート(70パーセント) 授業での発表(30パーセント)	1/2	
2			
3			
4			
5			
実務経験のある教員による授業科目			
実務経験の授業への活用方法			
日本語以外の言語による授業			
授業予定一覧			
第1週 導入			
第2週 学術論文の技法 1			
第3週 学術論文の技法 2			
第4週 英語論文の技法 1			
第5週 英語論文の技法 2			
第6週 受講生の発表 1-A			
第7週 受講生の発表 2-A			
第8週 受講生の発表 3-A			
第9週 学会発表の技法			
第10週 フィールドワークの技法 1			
第11週 フィールドワークの技法 2			
第12週 受講生の発表 1-B			
第13週 受講生の発表 2-B			
第14週 受講生の発表 3-B			
第15週 全体討論			

試験等
修士論文に向けた期末レポートの提出
試験のフィードバックの方法
期末レポートにコメントをつけて返却する。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
修士課程の学生に相応しい勉強量を求める。各週とも5時間の準備は必要である。
必携書（教科書販売）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
必携書・参考書（教科書販売以外）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
日英の文献を随時指定
オフィスアワー
後日発表
連絡先
後日発表
留意事項
調査研究の進展とともに修士論文のテーマは少しずつ変わっていくので、教員とよくコミュニケーションをとること。

国際コミュニケーション演習A		【単位数	2単位
授業コード	M2452	科目ナンバリング	開講年度学期 2024年度第1期
担当者氏名	植野 貴志子		
時間割備考			
授業形態(主)	2 演習		
授業形態(副)			
担当形態	単独		
研究分野(大学院)	国際コミュニケーション		
本授業の概要			
言語と文化・社会をテーマとした文献を購読し、理論的枠組みと論点を整理する。さらに既存の理論的枠組みを批判的に検討したうえで、その展開を試みる。データセッションを行いながら個人研究を進め、査読付学術誌に投稿できるレベルの論文作成を目指す。			
アクティブラーニングの実施内容			
到達目標		対応するディプロマポリシー (1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)	
1	語用論、社会言語学、関連分野の理論的枠組みを理解し、建設的な批判が行える。	知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
2	研究テーマについて適切な方法論を設定することができる。	知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
3	独自のデータ分析、考察を行い、査読付学術誌に投稿できるレベルの論文に仕上げることができる。	知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
4			
5			
成績評価の基準		対応する到達目標の番号	
1	発表 30%	1	
2	ディスカッションへの貢献 30%	1	
3	研究内容、論文の完成度 40%	1/2/3	
4			
5			
実務経験のある教員による授業科目			
実務経験の授業への活用方法			
日本語以外の言語による授業			
授業予定一覧			
1. インTRODクシヨN 2. 文献講読: Pragmatics and philosophy (1) 3. 文献講読: Pragmatics and philosophy (2) 4. 文献講読: Pragmatics and psychology (1) 5. 文献講読: Pragmatics and psychology (2) 6. データセッション (1) 7. データセッション (2) 8. 文献講読: Pragmatics and human ethology (1) 9. 文献講読: Pragmatics and human ethology (2) 10. 文献講読: Pragmatics and ethonology (1) 11. 文献講読: Pragmatics and ethonology (2) 12. データセッション (3) 13. データセッション (4) 14. 個人面談 15. 個人面談			

試験等
試験のフィードバックの方法 授業内あるいは面談でのフィードバック
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間 文献を読み、ハンドアウトにまとめる。各自の研究を進める。（10時間）
必携書（教科書販売） 書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
必携書・参考書（教科書販売以外） 書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
<p>&lt;必携書&gt; Senft, Gunter. 2014. Understanding Pragmatics. Routledge. (ISBN: 978-1444180305)</p> <p>その他、必要な資料は授業で配布する。</p> <p>&lt;参考書&gt; Haugh, Michael, Dániel Z. Kádár, Marina Terkourafi (eds.) 2021. The Cambridge Handbook of Sociopragmatics. Cambridge University Press. (ISBN: 978-1108954105)</p>
オフィスアワー 質問等は随時メール・対面で受け付ける。
連絡先 uenok@m.ndsu.ac.jp
留意事項

国際コミュニケーション演習B		【単位数】	2単位
授業コード	M2455	科目ナンバリング	開講年度学期 2024年度第2期
担当者氏名	Thomas Fast		
時間割備考			
授業形態(主)	2 演習		
授業形態(副)			
担当形態	単独		
研究分野(大学院)	国際コミュニケーション		
本授業の概要			
この授業は、異文化理解と国際コミュニケーションに関するテーマに関し、社会学の手法を用いて研究を遂行するための基礎を修得することを目的とする。社会学の中で用いられる調査方法を把握し、具体的な研究計画を立案し、実施に向けた作業を行う。			
アクティブラーニングの実施内容			
到達目標			対応するディプロマポリシー (1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)
1	研究テーマを設定し、調査計画を立案・実施するために必要なスキルを修得することができる。		知識・技能/思考・判断・表現力/主体性
2			
3			
4			
5			
成績評価の基準			対応する到達目標の番号
1	授業での発表 (20%)		1
2	タームペーパー (80%)		1
3			
4			
5			
実務経験のある教員による授業科目			
実務経験の授業への活用方法			
日本語以外の言語による授業			
授業予定一覧			
1. Drafting Findings: Answering Research Q 1 2. Drafting Findings: Answering Research Q 2 3. Drafting Findings: Answering Research Q 3 4. Drafting Findings: Chapter conclusion 5. Drafting Conclusion: Summarizing the Research 6. Drafting Conclusion: Implications 7. Drafting Conclusion: Limitations, Suggestions for Further Study, Conclusion 8. Finalizing Table of Contents and Abstract 9. Finalizing thesis draft and turn in 10. Revising thesis 11. Revising thesis 12. Revising thesis 13. Oral Defense Preparation: Slides 14. Interview Practice: Presentation 15. Interview Practice: Q&A  Translated with DeepL.com (free version)			

試験等
試験のフィードバックの方法
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間 指定された論文・図書のまとめ（3時間）
必携書（教科書販売） 書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
必携書・参考書（教科書販売以外） 書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
適宜配布
オフィスアワー By appointment
連絡先 fast@m.ndsu.ac.jp
留意事項 9月にシラバスがアップデートされるので確認すること

国際コミュニケーション演習B		【単位数】	2単位
授業コード	M2456	科目ナンバリング	開講年度学期 2024年度第2期
担当者氏名	桑山 敬己		
時間割備考			
授業形態(主)	2 演習		
授業形態(副)			
担当形態	単独		
研究分野(大学院)	国際コミュニケーション		
本授業の概要			
演習Aに続き、受講生は修士論文作成に向けて文献調査と現地調査(フィールドワーク)を行い、教室で進捗状況を報告する。晩秋には論文の草稿を仕上げるようにする。			
アクティブラーニングの実施内容			
到達目標		対応するディプロマポリシー (1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)	
1	修士論文作成のための知識と技法を身につけることができる。	知識・技能/思考・判断・表現力	
2	設定したテーマについて自ら調べることができる。	主体性	
3			
4			
5			
成績評価の基準		対応する到達目標の番号	
1	進捗状況の報告と修士論文の草稿の提出	1/2	
2			
3			
4			
5			
実務経験のある教員による授業科目			
実務経験の授業への活用方法			
日本語以外の言語による授業			
授業予定一覧			
第1週 導入 第2週 学術論文の形式 第3週 英語論文の形式 第4週 受講生の発表 1-A 第5週 受講生の発表 2-A 第6週 受講生の発表 3-A 第7週 エスノグラフィを書く 1 第8週 エスノグラフィを書く 2 第9週 修士論文の草稿の発表と講評 1-A 第10週 修士論文の草稿の発表と講評 2-A 第11週 修士論文の草稿の発表と講評 3-A 第12週 修士論文の草稿の発表と講評 1-B 第13週 修士論文の草稿の発表と講評 2-B 第14週 修士論文の草稿の発表と講評 3-B 第15週 学会発表の可能性を探る			

試験等
修士論文の草稿を提出する
試験のフィードバックの方法
修士論文の草稿にコメントをつけて返却する。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
修士論文を執筆する学生に相応しい集中力と忍耐力を求める。
必携書（教科書販売）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
必携書・参考書（教科書販売以外）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
日英の文献を随時指定
オフィスアワー
後日発表
連絡先
後日発表
留意事項
調査研究の進展とともに修士論文のテーマは少しずつ変わっていくので、教員とよくコミュニケーションをとること。

国際コミュニケーション演習B		【単位数	2単位
授業コード	M2457	科目ナンバリング	開講年度学期 2024年度第2期
担当者氏名	植野 貴志子		
時間割備考			
授業形態(主)	2 演習		
授業形態(副)			
担当形態	単独		
研究分野(大学院)	国際コミュニケーション		
本授業の概要			
言語と文化・社会をテーマとした文献を購読し、理論的枠組みと論点を整理する。さらに既存の理論的枠組みを批判的に検討したうえで、その展開を試みる。データセッションを行いながら個人研究を進め、査読付学術誌に投稿できるレベルの論文作成を目指す。			
アクティブラーニングの実施内容		グループ・ディスカッション	
到達目標			対応するディプロマポリシー (1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)
1	語用論、社会言語学、関連分野の理論的枠組みを理解し、建設的な批判が行える。		知識・技能/思考・判断・表現力/主体性
2	研究テーマについて適切な方法論を設定することができる。		知識・技能/思考・判断・表現力/主体性
3	独自のデータ分析、考察を行い、査読付学術誌に投稿できるレベルの論文に仕上げることができる。		知識・技能/思考・判断・表現力/主体性
4			
5			
成績評価の基準			対応する到達目標の番号
1	発表 30%		1
2	ディスカッションへの貢献 30%		1
3	研究内容、論文の完成度 40%		1/2/3
4			
5			
実務経験のある教員による授業科目			
実務経験の授業への活用方法			
日本語以外の言語による授業			
授業予定一覧			
1. インTRODクシヨN 2. 文献講読: Pragmatics and sociology (1) 3. 文献講読: Pragmatics and sociology (2) 4. 文献講読: Pragmatics and politics (1) 5. 文献講読: Pragmatics and politics (2) 6. データセッション (1) 7. データセッション (2) 8. 文献講読: Understanding pragmatics (1) 9. 文献講読: Understanding pragmatics (2) 10. 文献講読: Emancipatory pragmatics (1) 11. 文献講読: Emancipatory pragmatics (2) 12. データセッション (3) 13. データセッション (4) 14. 個人面談 15. 個人面談			

試験等
試験のフィードバックの方法 授業内あるいは面談でのフィードバック
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間 文献を読み、ハンドアウトにまとめる。各自の研究を進める。（10時間）
必携書（教科書販売） 書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
必携書・参考書（教科書販売以外） 書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
<p>&lt;必携書&gt; Senft, Gunter. 2014. Understanding Pragmatics. Routledge. (ISBN: 978-1444180305)</p> <p>その他、必要な資料は授業で配布する。</p> <p>&lt;参考書&gt; Haugh, Michael, Dániel Z. Kádár, Marina Terkourafi (eds.) 2021. The Cambridge Handbook of Sociopragmatics. Cambridge University Press. (ISBN: 978-1108954105)</p>
オフィスアワー 質問等は随時メール・対面で受け付ける。
連絡先 uenok@m.ndsu.ac.jp
留意事項

翻訳学特論A		【単位数】		2単位
授業コード	M2460	科目ナンバリング	開講年度学期	2024年度第1期
担当者氏名	木津 弥佳			
時間割備考				
授業形態(主)	1 講義			
授業形態(副)				
担当形態	単独			
研究分野(大学院)	実践翻訳			
本授業の概要				
本講では、英語と日本語の言語構造的・文体的違いと、それぞれの文化・社会的背景を認識し、英語から日本語、または日本語から英語へ翻訳する際に、何を考慮する必要があるのかを考察する。また、翻訳スキルや翻訳ストラテジーのみならず、それらがどのような翻訳理論を基盤としているのかを学び、自身の翻訳を客観的に評価し、翻訳プロセスを論理的に説明できる力を養う。具体的なトピックとして、句や文レベルとテキスト間の等価性や指標性、語用論的・文化的意味などについて考える。				
アクティブラーニングの実施内容		グループ・ディスカッション		
到達目標				対応するディプロマポリシー (1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)
1	英日・日英翻訳の高度な能力を身につける。			知識・技能/思考・判断・表現力/主体性
2	英語と日本語の言語的・文化社会的違いを認識して、翻訳に反映させることができる。			知識・技能/思考・判断・表現力/主体性
3	翻訳の際の課題を系統立てて説明できる。			知識・技能/思考・判断・表現力/主体性
4				
5				
成績評価の基準				対応する到達目標の番号
1	Presentation 20%			1/2/3
2	Translation 30%			1/2/3
3	Commentary 50%			1/2/3
4				
5				
実務経験のある教員による授業科目				
実務経験の授業への活用方法				
日本語以外の言語による授業				
授業予定一覧				
1 Orientation 2 Introduction to translation studies 3 Propositional meaning 4 Presupposed meaning, expressive meaning 5 Indexical meaning 6 Symbolic, allusive, associative and collocative meaning 7 Textual meaning, figurative meaning 8 Speech acts, ambiguity and vagueness 9 How to write a commentary 10 Narrative discourse 11 Procedural, expository, descriptive, hortatory, repartee discourse, etc. 12 Seven types of translation technique 13 Omission in translation, Information addition/deletion and offsetting, etc. 14 Summary 15 Peer review				

試験等
レポート
試験のフィードバックの方法
口頭と書面によるフィードバック
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
テキストを読み、発表用レジュメを作成する。（3時間）
必携書（教科書販売）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
必携書・参考書（教科書販売以外）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
<参考書>
Hasegawa, Yoko (2012) The Routledge Course in Japanese Translation. Routledge. 鳥飼玖美子（編著）(2013) 『よくわかる翻訳通訳学』ミネルヴァ書房。 Baker, Mona (1992) In Other Words: A Coursebook on Translation. Routledge. Munday, Jeremy (2008) Introducing Translation Studies: Theories and Applications [2nd edition]. Routledge.
オフィスアワー
By appointment
連絡先
mikakizu@m.ndsu.ac.jp
留意事項
履修登録を希望する人は、登録前に担当者まで申し出てください。

翻訳学特論B		【単位数】		2単位
授業コード	M2462	科目ナンバリング	開講年度学期	2024年度第2期
担当者氏名	木津 弥佳			
時間割備考				
授業形態(主)	1 講義			
授業形態(副)				
担当形態	単独			
研究分野(大学院)	実践翻訳			
本授業の概要				
1期に引き続き、英語と日本語の言語構造的・文体的違いと、それぞれの文化・社会的背景を認識し、英語から日本語、または日本語から英語へ翻訳する際に、何を考慮する必要があるのかを考察する。また、翻訳スキルや翻訳ストラテジーのみならず、それらがどのような翻訳理論を基盤としているのかを学び、自身の翻訳を客観的に評価し、翻訳プロセスを論理的に説明できる力を養う。特に、これまで提唱されてきた翻訳理論を概観し、より理論的基盤を固めて自身の翻訳作品を論じることができるようになる。				
アクティブラーニングの実施内容		グループ・ディスカッション		
到達目標				対応するディプロマポリシー (1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)
1	英日・日英翻訳のさらに高度な能力を身につける。		知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
2	英語と日本語の言語的・文化社会的違いを認識して、より正確に翻訳に反映させることができる。		知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
3	翻訳の際の課題を翻訳理論に基づいて説明できる。		知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
4				
5				
成績評価の基準				対応する到達目標の番号
1	Presentation 20%		1/2/3	
2	Translation 30%		1/2/3	
3	Commentary 50%		1/2/3	
4				
5				
実務経験のある教員による授業科目				
実務経験の授業への活用方法				
日本語以外の言語による授業				
授業予定一覧				
1 Introduction 2 Pre-modern translation theories 1 3 Pre-modern translation theories 2 4 Mid-twentieth century translation theories 1 5 Mid-twentieth century translation theories 2 6 Skopos theory 1 7 Skopos theory 2 8 Negative analytic 1 9 Negative analytic 2 10 Recent approaches 1 11 Recent approaches 2 12 The translation situation 1 13 The translation situation 2 14 Reading the source text 15 Translation evaluation				

試験等 レポート
試験のフィードバックの方法 口頭と書面によるフィードバック
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間 テキストを読み、発表用レジュメを作成する。（3時間）
必携書（教科書販売） 書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
必携書・参考書（教科書販売以外） 書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
<p>&lt;参考書&gt;</p> <p>Hasegawa, Yoko (2012) The Routledge Course in Japanese Translation. Routledge.</p> <p>鳥飼玖美子（編著）(2013) 『よくわかる翻訳通訳学』ミネルヴァ書房.</p> <p>Baker, Mona (1992) In Other Words: A Coursebook on Translation. Routledge.</p> <p>Munday, Jeremy (2008) Introducing Translation Studies: Theories and Applications [2nd edition]. Routledge.</p>
オフィスアワー By appointment
連絡先 mikakizu@m.ndsu.ac.jp
留意事項 履修登録を希望する人は、登録前に担当者まで申し出てください。

翻訳教育特論A			【単位数】	2単位
授業コード	M2465	科目ナンバリング	開講年度学期	2024年度第1期
担当者氏名	行木 瑛子			
時間割備考				
授業形態(主)	1 講義			
授業形態(副)				
担当形態	単独			
研究分野(大学院)	実践翻訳			
本授業の概要				
<p>本授業では、年少者向け教育・初等教育・中等教育・高等教育・翻訳者養成コースなど、様々な教育分野での翻訳の活用について考察する。授業では、国内外の事例を扱った論文(英語・日本語)を読み込み、ディスカッションを通して、翻訳教育に関する知見を深める。また、学んだ知見をもとに、自らが現在または将来、家庭・地域・教育等でどう翻訳教育を活用していけるかを考え、発表し、レポートにまとめる。</p> <p>本授業は、外国語教育に興味のある者のみならず、翻訳通訳者養成に携わりたい者、子どものバイリンガル教育に興味のある者や、在住外国人のサポートを考えている者などにとっても、どう自分の環境に翻訳を応用していくかを考えるきっかけとなるものである。</p>				
アクティブラーニングの実施内容		グループ・ディスカッション		
到達目標				対応するディプロマポリシー (1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)
1	様々な場面でどう翻訳教育が使用されているかについて理解できる。			知識・技能
2	現在・将来の自分の生活に翻訳教育をどう応用していけるかを具体的に説明できる。			思考・判断・表現力/主体性
3	英語・日本語の文献を読み込み、その内容を正確に理解した上で、内容について自分の意見を述べることができる。			思考・判断・表現力
4	複数の文献を読み込んだうえで、それに基づき発表・レポートの作成ができる。			思考・判断・表現力/主体性
5				
成績評価の基準				対応する到達目標の番号
1	授業時の議論への参加(40%)			1/3
2	課題(20%)			1/3
3	発表(20%)			2/4
4	レポート(20%)			2/4
5				
実務経験のある教員による授業科目				
実務経験の授業への活用方法				
日本語以外の言語による授業				
授業予定一覧				
<ol style="list-style-type: none"> <li>自己紹介・クラスの流れ・翻訳教育に関するブレインストーミング</li> <li>翻訳教育の理論的背景(バイリンガリズム・マルチリンガリズム)</li> <li>幼児教育での翻訳の活用</li> <li>初等教育での翻訳の活用</li> <li>複言語教育と翻訳の活用</li> <li>中等教育での翻訳の活用①: 文法訳読法とその批判</li> <li>中等教育での翻訳の活用②: 英語教育での実践例</li> <li>高等教育での翻訳の活用①: 日本語教育での実践例</li> <li>高等教育での翻訳の利用②: 文芸翻訳とクリエイティブライティング</li> <li>高等教育での翻訳の活用③: 視聴覚翻訳</li> <li>翻訳の専門教育: 学部向けコース</li> <li>翻訳の専門教育: 院生向けコース</li> <li>手話と翻訳教育</li> <li>翻訳担当教師向けのトレーニング</li> <li>発表とまとめ</li> </ol>				

試験等
レポート
試験のフィードバックの方法
レポートについては教員のコメントをメール等で送付する。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
事前学習：課題の文献を読み込んでくる・発表の準備を行う（1～2時間） 事後学習：授業でのディスカッションを振り返って、自分の意見をまとめる（1時間）
必携書（教科書販売）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
必携書・参考書（教科書販売以外）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
<参考書>
Laviosa, S., & Davies, M. G. (eds.). (2020). The Routledge handbook of translation and education. Routledge. Venuti, L., (ed.). (2016). Teaching translation: Programs, courses, pedagogies. Routledge. 野原 佳代子 (2014) 『ディスカッションから学ぶ翻訳学』三省堂.
オフィスアワー
Zoomでの授業後に質問を受け付ける。また、メールでも随時質問を受け付ける。
連絡先
g-eiko@okinawa-u.ac.jp
留意事項
シラバスは、履修学生の興味分野によって変更する可能性がある。

翻訳教育特論B			単位数	2単位
授業コード	M2467	科目ナンバリング	開講年度学期	2024年度第2期
担当者氏名	行木 瑛子			
時間割備考				
授業形態(主)	1 講義			
授業形態(副)				
担当形態	単独			
研究分野(大学院)	実践翻訳			
本授業の概要				
<p>前期に引き続き、本授業では、年少者向け教育・初等教育・中等教育・高等教育・翻訳者養成コースなど、様々な教育分野での翻訳の活用について考察する。第2期では、Guy Cookの『Translation in Language Teaching: An Argument for Reassessment』を輪読する。また、国内外の翻訳活動例を扱った論文(英語・日本語)を読み込み、ディスカッションを通して、翻訳教育に関する知見を深める。また、自らが現在または将来、家庭・地域・教育等でどう翻訳教育を実践するかを模擬授業の形で実践し、その振り返りをレポートにまとめる。</p> <p>本授業は、外国語教育に興味のある者のみならず、将来翻訳通訳者養成に携わりたい者、子どものバイリンガル教育に興味のある者や、在住外国人のサポートを考えている者などにとっても、どう自分の環境に翻訳を応用していくかを考えるきっかけとなるものである。</p>				
アクティブラーニングの実施内容	グループ・ディスカッション			
到達目標			対応するディプロマポリシー (1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)	
1	様々な場面でどう翻訳教育が使用されているかについて理解できる。		知識・技能	
2	現在・将来の自分の生活で翻訳教育を実践できるようになる。		思考・判断・表現力/主体性	
3	英語・日本語の文献を読み込み、その内容を正確に理解した上で、内容について自分の意見を述べる事ができる。		思考・判断・表現力	
4	複数の文献を読み込んだうえで、それに基づき発表・レポートの作成ができる。		思考・判断・表現力/主体性	
5				
成績評価の基準			対応する到達目標の番号	
1	授業時の議論への参加(40%)		1/3	
2	課題(20%)		1/3	
3	発表(20%)		2/4	
4	レポート(20%)		2/4	
5				
実務経験のある教員による授業科目				
実務経験の授業への活用方法				
日本語以外の言語による授業				
授業予定一覧				
<ol style="list-style-type: none"> <li>自己紹介・クラスの流れ・前期の復習</li> <li>翻訳教育の歴史①: 直接教授法・文法訳読法</li> <li>翻訳教育の歴史②: 直接教授法から意味重視へ</li> <li>翻訳教育の歴史③: 二言語併用の再考</li> <li>翻訳教育の歴史④: 訳すとは</li> <li>第二言語習得研究における翻訳</li> <li>翻訳教育の在り方をめぐる議論</li> <li>翻訳教育の方法をめぐる議論</li> <li>翻訳の活用例①: コミュニケーション重視の翻訳活動例</li> <li>翻訳の活用例②: クリティカル・リテラシーを育むための翻訳活動例</li> <li>翻訳の活用例③: 複言語能力を育むための翻訳活動例</li> <li>翻訳の活用例④: ChatGPTを使った翻訳活動例</li> <li>模擬授業の教案指導</li> <li>模擬授業の発表と振り返り</li> <li>クラスのまとめ</li> </ol>				

試験等
レポート
試験のフィードバックの方法
レポートについては教員のコメントをメール等で送付する。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
事前学習：課題の文献を読み込んでくる・発表の準備を行う（1~2時間） 事後学習：授業でのディスカッションを振り返って、自分の意見をまとめる（1時間）
必携書（教科書販売）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
必携書・参考書（教科書販売以外）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
<参考書>
Cook, G. (2011) Translation in language teaching: An argument for reassessment. Oxford University Press. Laviosa, S., & Davies, M. G. (eds.) (2020) The Routledge handbook of translation and education. Routledge. Venuti, L. (ed.) (2016) Teaching translation: Programs, courses, pedagogies. Routledge. 野原 佳代子 (2014) 『ディスカッションから学ぶ翻訳学』三省堂。
オフィスアワー
Zoomでの授業後に質問を受け付ける。また、メールでも随時質問を受け付ける。
連絡先
g-eiko@okinawa-u.ac.jp
留意事項
シラバスは、履修学生の興味分野によって変更する可能性がある。

翻訳実践演習IA		単位数	2単位
授業コード	M2470	科目ナンバリング	開講年度学期 2024年度第1期
担当者氏名	小笠原 ヒロ子		
時間割備考			
授業形態(主)	2 演習		
授業形態(副)			
担当形態	単独		
研究分野(大学院)			
本授業の概要			
このコースの目的は、学生が英語のテキストを適切な日本語に翻訳ができる高度な翻訳スキルを取得、開拓していける指導することである。このコースでは、フィクション、ノンフィクションを織り交ぜながら、様々なテキストを取り扱っていく。このコースでは英語のテキストを、異なる文法、慣用表現、発話法などにとらわれずに、自然な日本語へと翻訳する訓練をする			
アクティブラーニングの実施内容		グループ・ディスカッション	
到達目標			対応するディプロマポリシー (1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)
1	英語のテキストの形式、内容、意味を評価し、それを適切な日本語に翻訳する方法を考えることができる。	知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
2	翻訳に必要な資料、辞書等を有効に活用して、翻訳することができる。	知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
3	原稿の英語のテキストのスタイルに合致した日本語を選び、またオリジナルの英語の内容、ニュアンスを正確に理解した上で、作者が意図した通りの日本語に翻訳ができる。	知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
4	自分が翻訳した際に心掛けたことを文書でも、口頭でも説明できる。	知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
5			
成績評価の基準			対応する到達目標の番号
1	注釈付きニュース記事の翻訳 30%	1/2/3/4	
2	注釈付き解説エッセイの翻訳 30%	1/2/3/4	
3	注釈付きショートストーリーの翻訳 40%	1/2/3/4	
4			
5			
実務経験のある教員による授業科目		実務あり	
実務経験の授業への活用方法			
講師は、学術論文、医学論文、体験書、報告書、マニュアル、パンフレット、カタログ、法律文書等の翻訳経験がある。その経験を通して、読者にわかりやすい翻訳はどのように心掛けたらよいかを学生に伝える			
日本語以外の言語による授業			
授業予定一覧			
<ol style="list-style-type: none"> <li>オリエンテーション： 基本的な英語の文章を日本語に翻訳する</li> <li>英語による対話を日本語に翻訳する： 英語のジャーナリズム、内容、様式、スタイル</li> <li>英語による対話を日本語に翻訳する： 英語のジャーナリズム、内容、様式、スタイル</li> <li>日本語と英語の分法の違い考察 英語のジャーナリズム、内容、様式、スタイル</li> <li>注釈付き翻訳の評価 1. 提出とディスカッション</li> <li>日本語と英語の分法の違い考察 英語の解説文、内容、様式、スタイル</li> <li>翻訳テクニックの習得 文章、英語の解説文、内容、様式、スタイル</li> <li>翻訳テクニックの習得 文章、英語の解説文、内容、様式、スタイル</li> <li>翻訳テクニックの習得 長文、英語の解説文、内容、様式、スタイル</li> <li>注釈付き翻訳の評価 2. 提出とディスカッション</li> <li>翻訳テクニックの習得 長文、文学の翻訳、内容、様式、スタイル</li> <li>翻訳テクニックの習得 対話、文学の翻訳、内容、様式、スタイル</li> <li>翻訳テクニックの習得 詳細説明、文学の翻訳、内容、様式、スタイル</li> <li>翻訳テクニックの習得 ジャンル、文学の翻訳、内容、様式、スタイル</li> <li>注釈付き翻訳の評価 3. 提出とディスカッション</li> </ol>			

<b>試験等</b>
学生個々に翻訳のフィードバックを行う
<b>試験のフィードバックの方法</b>
学生の課題提出したものに対して、定期的にコメントを付けてフィードバックを行う。 口頭の説明が必要な場合は、応じる。
<b>準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間</b>
課題を毎週だすので、学生はテキストを読み、理解し、授業前までに課題を完成させておく。授業中は翻訳した内容についてのディスカッションを行う。1.5-2.5時間/週
<b>必携書（教科書販売）</b>
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
なし。授業に合わせた資料を講師から配布する。
<b>必携書・参考書（教科書販売以外）</b>
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
なし。
<b>オフィスアワー</b>
授業終了後に教室で質問を受け付ける
<b>連絡先</b>
m8022@m.ndsu.ac.jp
<b>留意事項</b>
この授業は学生は積極的に参加することを求める。課題は事前に完了させ、授業中は、ディスカッションにより、活発な意見交換を行う。

翻訳実践演習IB		【単位数】		2単位
授業コード	M2472	科目ナンバリング	開講年度学期	2024年度第2期
担当者氏名	小笠原 ヒロ子			
時間割備考				
授業形態(主)	2 演習			
授業形態(副)				
担当形態	単独			
研究分野(大学院)	実践翻訳			
本授業の概要				
このコースの目的は、学生が英語のテキストを適切な日本語に翻訳ができる高度な翻訳スキルを取得、開拓していける指導することである。このコースでは、フィクション、ノンフィクションを織り交ぜながら、様々なテキストを取り扱っていく。このコースでは英語のテキストを、異なる文法、慣用表現、発話法などにとらわれずに、自然な日本語へと翻訳する訓練をする。				
アクティブラーニングの実施内容		グループ・ディスカッション		
到達目標				対応するディプロマポリシー (1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)
1	英語のテキストの形式、内容、意味を評価し、それを適切な日本語に翻訳する方法を考えることができる。	知識・技能/思考・判断・表現力/主体性		
2	翻訳に必要な資料、辞書等を有効に活用して、翻訳することができる。	知識・技能/思考・判断・表現力/主体性		
3	原稿の英語のテキストのスタイルに合致した日本語を選び、またオリジナルの英語の内容、ニュアンスを正確に理解した上で、作者が意図した通りの日本語に翻訳ができる。	知識・技能/思考・判断・表現力/主体性		
4	自分が翻訳した際に心掛けたことを文書でも、口頭でも説明できる。	知識・技能/思考・判断・表現力/主体性		
5				
成績評価の基準				対応する到達目標の番号
1	注釈付きニュース記事の翻訳 30%	1/2/3/4		
2	注釈付き解説エッセイの翻訳 30%	1/2/3/4		
3	注釈付きショートストーリーの翻訳 40%	1/2/3/4		
4				
5				
実務経験のある教員による授業科目		実務あり		
実務経験の授業への活用方法				
講師は、学術論文、医学論文、体験書、報告書、マニュアル、パンフレット、カタログ、法律文書等の翻訳経験がある。その経験を通して、読者にわかりやすい翻訳はどのように心掛けたらよいかを学生に伝える。				
日本語以外の言語による授業				
授業予定一覧				
<ol style="list-style-type: none"> <li>オリエンテーション： 基本的な英語の文章を日本語に翻訳する</li> <li>英語による対話を日本語に翻訳する： 英語のジャーナリズム、内容、様式、スタイル</li> <li>英語による対話を日本語に翻訳する： 英語のジャーナリズム、内容、様式、スタイル</li> <li>日本語と英語の分法の違い考察 英語のジャーナリズム、内容、様式、スタイル</li> <li>注釈付き翻訳の評価 1. 提出とディスカッション</li> <li>日本語と英語の分法の違い考察 英語の解説文、内容、様式、スタイル</li> <li>翻訳テクニックの習得 文章、英語の解説文、内容、様式、スタイル</li> <li>翻訳テクニックの習得 文章、英語の解説文、内容、様式、スタイル</li> <li>翻訳テクニックの習得 長文、英語の解説文、内容、様式、スタイル</li> <li>注釈付き翻訳の評価 2. 提出とディスカッション</li> <li>翻訳テクニックの習得 長文、文学の翻訳、内容、様式、スタイル</li> <li>翻訳テクニックの習得 対話、文学の翻訳、内容、様式、スタイル</li> <li>翻訳テクニックの習得 詳細説明、文学の翻訳、内容、様式、スタイル</li> <li>翻訳テクニックの習得 ジャンル、文学の翻訳、内容、様式、スタイル</li> <li>注釈付き翻訳の評価 3. 提出とディスカッション</li> </ol>				

<b>試験等</b> 学生個々に翻訳のフィードバックを行う。
<b>試験のフィードバックの方法</b> 学生の課題提出したものに対して、定期的にコメントを付けてフィードバックを行う。 口頭の説明が必要な場合は、応じる。
<b>準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間</b> 課題を毎週だすので、学生はテキストを読み、理解し、授業前までに課題を完成させておく。授業中は翻訳した内容についてのディスカッションを行う。1.5-2.5時間/週
<b>必携書（教科書販売）</b> 書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
なし。授業に合わせた資料を講師から配布する。
<b>必携書・参考書（教科書販売以外）</b> 書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
なし。
<b>オフィスアワー</b> 授業終了後に教室で質問を受け付ける。
<b>連絡先</b> m8022@m.ndsu.ac.jp
<b>留意事項</b> この授業は学生は積極的に参加することを求める。課題は事前に完了させ、授業中は、ディスカッションにより、活発な意見交換を行う。

翻訳実践演習IIA		【単位数】		2単位
授業コード	M2475	科目ナンバリング	開講年度学期	2024年度第1期
担当者氏名	Jason Williams			
時間割備考				
授業形態(主)	2 演習			
授業形態(副)				
担当形態	単独			
研究分野(大学院)	Practical Translation (実践翻訳)			
本授業の概要				
The objective of this course is to help students acquire and develop advanced translation skills and techniques for the competent translation of authentic Japanese source texts into English. This course will focus on a variety narrative literary texts in both fiction and non-fiction. The course will also focus on differences in Japanese and English discourse, rhetoric, grammar and semantics. Students will produce annotated English translations of Japanese source texts.				
アクティブラーニングの実施内容		グループ・ディスカッション		
到達目標			対応するディプロマポリシー (1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)	
1	Students will be able to evaluate authentic Japanese texts for form, content and meaning, and select appropriate strategies and techniques for translating them into English.	知識・技能/思考・判断・表現力/主体性		
2	Students will be able to evaluate and select appropriate resource materials and apply them to their translation process.	知識・技能/思考・判断・表現力/主体性		
3	Students will be able to demonstrate the application of translation strategies and techniques by producing translations that are stylistically appropriate, show sensitivity to the language, style and content of the source text, and display a good command of a variety of	知識・技能/思考・判断・表現力/主体性		
4	Students will be able to explain and compare their translation approaches and choices both in writing and orally.	知識・技能/思考・判断・表現力/主体性		
5				
成績評価の基準			対応する到達目標の番号	
1	Assessed Annotated Translation 1: News Article - 30%	1/2/3/4		
2	Assessed Annotated Translation 2: Expository Essay - 30%	1/2/3/4		
3	Assessed Annotated Translation 3: Short Story - 40%	1/2/3/4		
4				
5				
実務経験のある教員による授業科目		実務あり		
実務経験の授業への活用方法				
The instructor has published a number of Japanese to English translations, including literary, medical, industrial, and academic source texts as well as personal and professional correspondence and communication.				
日本語以外の言語による授業		英語		
授業予定一覧				
1. Course Orientation・Basics of Japanese to English Translation 2. Discourse and Rhetoric in Japanese to English Translation・English Journalism: Content, Form, Style 3. Discourse and Rhetoric in Japanese to English Translation・English Journalism: Content, Form, Style 4. Japanese and English Grammar・English Journalism: Content, Form, Style 5. Assessed Annotated Translation 1・Submission and Discussion 6. Japanese and English Grammar・English Expository Writing: Content, Form, Style 7. Translations Strategies and Techniques: Sentences・English Expository Writing: Content, Form, Style 8. Translations Strategies and Techniques: Sentences・English Expository Writing: Content, Form, Style 9. Translations Strategies and Techniques: Extended Passages・English Expository Writing: Content, Form, Style 10. Assessed Annotated Translation 2・Submission and Discussion 11. Translations Strategies and Techniques: Extended Passages・Literary Translation: Content, Form, Style 12. Translations Strategies and Techniques: Dialogues・Literary Translation: Content, Form, Style 13. Translations Strategies and Techniques: Explication・Literary Translation: Content, Form, Style 14. Translations Strategies and Techniques: Genre・Literary Translation: Content, Form, Style 15. Assessed Annotated Translation 3・Submission and Discussion				

試験等
16. Individual Feedback Sessions
試験のフィードバックの方法
Written and oral feedback on practice assignments will be given on a regular basis. Assessed assignments will be returned with written feedback, with oral feedback provided upon request.
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
Reading, preparation and practice assignments will be provided on a weekly basis. Students are expected to have them completed before each class and to be prepared for discussion of them. These assignments will total approximately 1.5 ~ 2.5 hours per week.
必携書（教科書販売）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
There is no required textbook for this course. Materials for all coursework, including source texts and reference materials, will be provided by the instructor.
必携書・参考書（教科書販売以外）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
An extensive list of reference materials, dictionaries and grammar books that students may wish to purchase for personal use will be provided on or before the first day of class .
オフィスアワー
Mondays 1:00 ~ 2:30 ノートルダムホール東棟 264ND Students may also speak with the instructor before or after any class session as well as ask questions by e-mail at any time and schedule individual appointments.
連絡先
williams@m.ndsu.ac.jp
留意事項
This course is the first of two graduate Japanese-to-English translation courses. Students are expected to attend and be prepared for every class . Students are also expected to complete all assignments, practice and assessed, on time, and actively participate in all class discussions and activities. Students are encouraged to respectfully share their ideas and opinions with the instructor and each other, accept input from others, and to ask questions at any times.

翻訳実践演習IIB		【単位数】	2単位
授業コード	M2477	科目ナンバリング	開講年度学期 2024年度第2期
担当者氏名	Jason Williams		
時間割備考			
授業形態(主)	2 演習		
授業形態(副)			
担当形態	単独		
研究分野(大学院)	Practical Translation (実践翻訳)		
本授業の概要			
The objective of this course is to help students acquire and develop advanced translation skills and techniques for the accurate translation of authentic Japanese source texts into English. This course will focus on the accurate translation of specialized texts in various fields including: medical, industrial, technical, advertising, business, academia and formal. The course will also focus on differences in Japanese and English discourse, rhetoric, grammar and semantics. Students will produce annotated English translations of Japanese source texts.			
アクティブラーニングの実施内容	グループ・ディスカッション		
到達目標		対応するディプロマポリシー (1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)	
1	Students will be able to evaluate authentic Japanese texts for form, content and meaning, and select appropriate strategies and techniques for translating them into English.	知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
2	Students will be able to evaluate and select appropriate resource materials and apply them to their translation process.	知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
3	Students will be able to demonstrate the application of translation strategies and techniques by producing translations that are stylistically appropriate, show sensitivity to the language, style and content of the source text, and display a good command of a variety of	知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
4	Students will be able to explain and compare their translation approaches and choices both in writing and orally.	知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
5			
成績評価の基準		対応する到達目標の番号	
1	Assessed Annotated Translation 1: Specialized Text - 30%	1/2/3/4	
2	Assessed Annotated Translation 2: Specialized Text - 30%	1/2/3/4	
3	Assessed Annotated Translation 3: Specialized Text - 40%	1/2/3/4	
4			
5			
実務経験のある教員による授業科目		実務あり	
実務経験の授業への活用方法			
The instructor has published a number of Japanese to English translations, including literary, medical, industrial, and academic source texts as well as personal and professional correspondence and communication.			
日本語以外の言語による授業		英語	
授業予定一覧			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Course Orientation・Introduction to Specialized Texts</li> <li>2. Style and Register・Business &amp; Formal English</li> <li>3. Style and Register・Business &amp; Formal English</li> <li>4. Locating Background and Specialist Information・Medical English</li> <li>5. Assessed Annotated Translation 1・Submission and Discussion</li> <li>6. Locating Background and Specialist Information・Medical English</li> <li>7. Terminological Accuracy and Consistency・Technical and Industrial English</li> <li>8. Terminological Accuracy and Consistency・Technical and Industrial English</li> <li>9. Linguistic and Format Accuracy・Academic English</li> <li>10. Assessed Annotated Translation 2・Submission and Discussion</li> <li>11. Linguistic and Format Accuracy・Academic English</li> <li>12. Readability and Naturalness・Advertising and Publicity English</li> <li>13. Readability and Naturalness・Advertising and Publicity English</li> <li>14. Review: Accuracy in Form, Content, Style, Message and Meaning</li> <li>15. Assessed Annotated Translation 3・Submission and Discussion</li> </ol>			

試験等
16. Individual Feedback Sessions
試験のフィードバックの方法
Written and oral feedback on practice assignments will be given on a regular basis. Assessed assignments will be returned with written feedback, with oral feedback provided upon request.
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
Reading, preparation and practice assignments will be provided on a weekly basis. Students are expected to have them completed before each class and to be prepared for discussion of them. These assignments will total approximately 1.5 ~ 2.5 hours per week.
必携書（教科書販売）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
There is no required textbook for this course. Materials for all coursework, including source texts and reference materials, will be provided by the instructor.
必携書・参考書（教科書販売以外）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
An extensive list of reference materials, dictionaries and grammar books that students may wish to purchase for personal use will be provided on or before the first day of class .
オフィスアワー
Mondays 1:00 ~ 2:30 ノートルダムホール東棟 264ND Students may also speak with the instructor before or after any class session as well as ask questions by e-mail at any time and schedule individual appointments.
連絡先
williams@m.ndsu.ac.jp
留意事項
This course is the second of two graduate Japanese-to-English translation courses. Students are expected to attend and be prepared for every class . Students are also expected to complete all assignments, practice and assessed, on time, and actively participate in all class discussions and activities. Students are encouraged to respectfully share their ideas and opinions with the instructor and each other, accept input from others, and to ask questions at any times.

翻訳学演習A		【単位数】		2単位
授業コード	M2480	科目ナンバリング	開講年度学期	2024年度第1期
担当者氏名	木津 弥佳			
時間割備考				
授業形態(主)	2 演習			
授業形態(副)	2 演習			
担当形態	単独			
研究分野(大学院)	実践翻訳			
本授業の概要				
本演習では、翻訳とコメンタリーから構成される修士論文を執筆するために必要な知識と方法論を学ぶ。また、理論的・実践的研究に基づいた修士論文執筆にも対応できるように先行研究を洗い出し、関連する文献を批判的に読み、建設的な意見を述べるための訓練を行う。				
アクティブラーニングの実施内容		グループ・ディスカッション		
到達目標				対応するディプロマポリシー (1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)
1	翻訳学関連の修士論文の課題設定を適切に行うことができる。			知識・技能/思考・判断・表現力/主体性
2	必要な方法論を理解し、実践することができる。			知識・技能/思考・判断・表現力/主体性
3	英語・日本語で書かれた先行研究を的確に理解し、批判的に読むことができる。			知識・技能/思考・判断・表現力/主体性
4				
5				
成績評価の基準				対応する到達目標の番号
1	発言等による授業への貢献 20%			1/2/3
2	発表 30%			1/2/3
3	論文 50%			1/2/3
4				
5				
実務経験のある教員による授業科目				
実務経験の授業への活用方法				
日本語以外の言語による授業				
授業予定一覧				
1. Introduction 2. Research questions and ethics 3. Literature review 1 4. Literature review 2 5. Literature review 3 6. Literature review 4 7. Literature review 5 8. Literature review 6 9. Summarizing previous research 1 10. Summarizing previous research 2 11. Research methods 1 12. Research methods 2 13. Research quality: validity and reliability 14. Research quality: generalizability 15. Summary				

試験等
論文
試験のフィードバックの方法
口頭または書面によるフィードバック
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
文献のまとめと発表の準備（3時間）
必携書（教科書販売）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
必携書・参考書（教科書販売以外）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
適宜紹介・配布
オフィスアワー
By appointment
連絡先
mikakizu@m.ndsu.ac.jp
留意事項

翻訳学演習B		【単位数】	2単位
授業コード	M2482	科目ナンバリング	開講年度学期 2024年度第2期
担当者氏名	木津 弥佳		
時間割備考			
授業形態(主)	2 演習		
授業形態(副)			
担当形態	単独		
研究分野(大学院)	実践翻訳		
本授業の概要			
本演習では、翻訳学関連の修士論文の執筆と発表・ディスカッションの際に必要な英語理解力と運用能力をさらに高め、受講者の扱う研究課題について深く理解し、わかりやすく説明する訓練を行う。			
アクティブラーニングの実施内容		グループ・ディスカッション	
到達目標			対応するディプロマポリシー (1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)
1	先行研究の内容を深く理解し、適切にまとめることができる。	知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
2	翻訳作品を客観的に評価し、建設的に批判することができる。	知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
3	深い英語理解力を持ち、高度な英語運用力を用いて発表と質疑応答ができる。	知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
4			
5			
成績評価の基準			対応する到達目標の番号
1	発言等による授業への貢献 20%	1/2/3	
2	発表 30%	1/2/3	
3	論文 50%	1/2/3	
4			
5			
実務経験のある教員による授業科目			
実務経験の授業への活用方法			
日本語以外の言語による授業			
授業予定一覧			
1. Summarizing backgrounds 2. Translation process research 3. Reviewing translation 1 4. Reviewing translation 2 5. Reviewing translation 3 6. Presentation 1 7. Reviewing translation 4 8. Reviewing translation 5 9. Reviewing translation 6 10. Analysis: linguistic viewpoints 11. Analysis: contextual viewpoints 12. Analysis: theoretical viewpoints 13. Analysis: editorial viewpoints 14. Presentation 2 15. Summary and feedback			

試験等
論文
試験のフィードバックの方法
口頭または書面によるフィードバック
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
論文のまとめまたは翻訳分析（3時間）
必携書（教科書販売）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
必携書・参考書（教科書販売以外）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
適宜配布・紹介
オフィスアワー
By appointment
連絡先
mikakizu@m.ndsu.ac.jp
留意事項

聖書学特論IB		【単位数】		2単位	
授業コード	M2515	科目ナンバリング		開講年度学期	2024年度第2期
担当者氏名	山根 道公				
時間割備考					
授業形態(主)	1 講義				
授業形態(副)	2 演習				
担当形態	単独				
研究分野(大学院)	専門関連科目				
本授業の概要					
日本の近現代文学にはキリスト教的、聖書的影響のある作品が多くあるが、そうした中から戦後の小説および詩を取り上げ、キリスト教的思想や聖書の象徴表現などに注目して分析、読解を行い、作品研究を試みる。さらにそうした作品研究を踏まえて、作家研究にも取り組む。					
アクティブラーニングの実施内容					
到達目標				対応するディプロマポリシー (1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)	
1	キリスト教的、聖書の主題をもつ日本近現代文学の作品を分析する方法を修得できる。			知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
2					
3					
4					
5					
成績評価の基準				対応する到達目標の番号	
1	授業内活動30%			1	
2	研究レポート70%			1	
3					
4					
5					
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の授業への活用方法					
日本語以外の言語による授業					
授業予定一覧					
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 導入</li> <li>2. 日本近現代文学におけるキリスト教の影響のある作品・作家の概説。</li> <li>3. 具体的な作品を選んで、分析、読解を行う。その1</li> <li>4. 具体的な作品を選んで、分析、読解を行う。その2</li> <li>5. 具体的な作品を選んで、分析、読解を行う。その3</li> <li>6. 具体的な作品を選んで、分析、読解を行う。その4</li> <li>7. 具体的な作品を選んで、分析、読解を行う。その5</li> <li>8. 具体的な作品を選んで、分析、読解を行う。その6</li> <li>9. 具体的な作品を選んで、分析、読解を行う。その7</li> <li>10. 具体的な作品を選んで、分析、読解を行う。その8</li> <li>11. 作品研究を踏まえて、作家研究を行う。その1</li> <li>12. 作品研究を踏まえて、作家研究を行う。その2</li> <li>13. 作品研究を踏まえて、作家研究を行う。その3</li> <li>14. 作品研究を踏まえて、作家研究を行う。その4</li> <li>15. まとめ</li> </ol>					

試験等
レポート提出（課題の内容は授業内で指示）
試験のフィードバックの方法
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間 事前に示した作品を読んでおくこと。（約2時間） 自分なりに問題意識をもって作品分析と考察をしておくこと。（約1時間） 自分の作品分析と考察の内容に修正を加えるなど、復習をすること。（約1時間）
必携書（教科書販売）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
必携書・参考書（教科書販売以外）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
授業中に指示する。
オフィスアワー
オフィスタワーは、金曜日12：30-13：00 質問は随時、授業の後、また電子メールで受け付ける。
連絡先
yamane@m.ndsu.ac.jp
留意事項
講義で取り上げる作品および指示する参考文献を予め読んでおくこと。

キリスト教思想特論IIA		単位数	2単位
授業コード	M2530	科目ナンバリング	開講年度学期
担当者氏名	袴田 渉		
時間割備考			
授業形態(主)	1 講義		
授業形態(副)			
担当形態	単独		
研究分野(大学院)	専門関連科目		
本授業の概要			
<p>英米文学は、キリスト教を由来とする表現に満ちており、この宗教に発した文化と思想とを背景にしている。本授業では、英米文学を読み解くために必須となる聖書の知識とキリスト教文化について学ぶ。1期では、旧約・新約聖書の内容をテキストと共に学び、イギリスとアメリカ双方の歴史と文化に多大な影響を及ぼしたキリスト教について理解を深める。</p>			
アクティブラーニングの実施内容			
到達目標		対応するディプロマポリシー (1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)	
1	キリスト教文化を理解し、これに基づく英米文学上の表現を読み解くことができる。	知識・技能/思考・判断・表現力	
2			
3			
4			
5			
成績評価の基準		対応する到達目標の番号	
1	授業への参加態度 (30%)	1	
2	リアクションペーパー (20%)	1	
3	期末レポート (50%)	1	
4			
5			
実務経験のある教員による授業科目			
実務経験の授業への活用方法			
日本語以外の言語による授業			
授業予定一覧			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. インTRODクシヨN</li> <li>2. キリスト教の聖書について</li> <li>3. 旧約聖書 (1) 天地創造</li> <li>4. 旧約聖書 (2) 二つの創造</li> <li>5. 旧約聖書 (3) アブラハムの物語</li> <li>6. 旧約聖書 (4) イスラエルの誕生</li> <li>7. 旧約聖書 (5) モーセと出エジプト</li> <li>8. 旧約聖書 (6) 十戒</li> <li>9. 新約聖書 (1) 旧約から新約へ</li> <li>10. 新約聖書 (2) 新約聖書の全体像</li> <li>11. 新約聖書 (3) イエスの物語</li> <li>12. 新約聖書 (4) 主の祈り</li> <li>13. 新約聖書 (5) 教会の誕生</li> <li>14. 新約聖書 (6) 黙示録</li> <li>15. まとめ</li> </ol>			

試験等
期末レポート
試験のフィードバックの方法
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間 参考文献をもとに予習し、配布資料等を用いて授業内容を復習する。（4時間）
必携書（教科書販売） 書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
必携書・参考書（教科書販売以外） 書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
毎回の授業で、旧約・新約聖書を参照する。参考文献については、授業内で指示する。
オフィスアワー 授業終了後に教室で質問を受け付ける。
連絡先 hakamada@nanzan-u.ac.jp
留意事項 本授業では、教員による講義に終始せず、場合により演習形式も取り入れる。

キリスト教思想特論IIB		【単位数】	2単位
授業コード	M2535	科目ナンバリング	開講年度学期 2024年度第2期
担当者氏名	袴田 渉		
時間割備考			
授業形態(主)	1 講義		
授業形態(副)			
担当形態	単独		
研究分野(大学院)	専門関連科目		
本授業の概要			
<p>英米文学は、キリスト教を由来とする表現に満ちており、この宗教に発した文化と思想とを背景にしている。本授業では、英米文学を読み解くために必須となる聖書の知識とキリスト教文化について学ぶ。2期では、キリスト教の歴史的展開を概観しつつ、それが世界にもたらした文化を、映像資料等を用いて学ぶことで、キリスト教の多面的な理解を目指す。</p>			
アクティブラーニングの実施内容			
到達目標		対応するディプロマポリシー (1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)	
1	キリスト教文化を理解し、これに基づく英米文学上の表現を読み解くことができる。	知識・技能/思考・判断・表現力	
2			
3			
4			
5			
成績評価の基準		対応する到達目標の番号	
1	授業への参加態度 (30%)	1	
2	リアクションペーパー (20%)	1	
3	期末レポート (50%)	1	
4			
5			
実務経験のある教員による授業科目			
実務経験の授業への活用方法			
日本語以外の言語による授業			
授業予定一覧			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. インTRODクシヨN</li> <li>2. ローマ帝国とキリスト教</li> <li>3. 教義の成立 (1) 三位一体論</li> <li>4. 教義の成立 (2) キリスト論</li> <li>5. 修道制の成立 (1) 独住修道生活</li> <li>6. 修道制の成立 (2) 共住修道生活</li> <li>7. 修道制の成立 (3) 西方の修道制</li> <li>8. 国教化と東西分離</li> <li>9. 教会分裂と十字軍</li> <li>10. キリスト教の文化 (1) クリスマス</li> <li>11. 修道院の時代</li> <li>12. ローマ・カトリック教会</li> <li>13. 宗教改革</li> <li>14. キリスト教の文化 (2) 聖人崇敬</li> <li>15. まとめ</li> </ol>			

試験等
期末レポート
試験のフィードバックの方法
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間 参考文献をもとに予習し、配布資料等を用いて授業内容を復習する。（4時間）
必携書（教科書販売） 書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
必携書・参考書（教科書販売以外） 書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
毎回の授業で、旧約・新約聖書を参照する。参考文献については、授業内で指示する。
オフィスアワー 授業終了後に教室で質問を受け付ける。
連絡先 hakamada@nanzan-u.ac.jp
留意事項 本授業では、教員による講義に終始せず、場合により演習形式も取り入れる。

英語科教育特論A		単位数		2単位
授業コード	M2540	科目ナンバリング	開講年度学期	2024年度第1期
担当者氏名	伊藤 豊美			
時間割備考				
授業形態(主)	1 講義			
授業形態(副)				
担当形態	単独			
研究分野(大学院)	専門関連科目			
本授業の概要				
本授業では、英語教育学の基礎基本を修得し、より高度な内容を研究する。特に、文部科学省学習指導要領に基づく具体的な指導技術を高めるとともに、言語(母語並びに外国語)習得の過程や学習者研究の在り方について考察する。				
アクティブラーニングの実施内容		問題解決型学習		
到達目標				対応するディプロマポリシー (1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)
1	英語科教育の背景となる専門知識を修得する。		知識・技能/思考・判断・表現力	
2	実際の教室における高い指導技術を身に付ける。		知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
3	英語そのものの高い運用能力を身に付ける。		知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
4				
5				
成績評価の基準				対応する到達目標の番号
1	授業時の発表(40%)		1/2/3	
2	レポートの内容(30%)		1/2/3	
3	指導技術の修得状況(30%)		1/2/3	
4				
5				
実務経験のある教員による授業科目				
実務経験の授業への活用方法				
日本語以外の言語による授業				
授業予定一覧				
<ol style="list-style-type: none"> <li>1 オリエンテーション</li> <li>2 国際社会における英語：国際化と英語教育、国際語としての英語の将来</li> <li>3 世界の英語教育事情：ヨーロッパ諸国、アジア・アフリカ等の外国語教育</li> <li>4 日本の英語教育の史的展望：(1) 江戸末期～大正</li> <li>5 日本の英語教育の史的展望：(2) 昭和～平成</li> <li>6 日本の英語教育の史的展望：(3) 令和～新しい時代に向けて</li> <li>7 英語教授法の変遷 (1) The Grammar Translation Method &amp; Direct Methods</li> <li>8 英語教授法の変遷 (2) The Oral Method</li> <li>9 英語教授法の変遷 (3) The Oral Approach</li> <li>10 英語教授法の変遷 (4) The Cognitive Approach</li> <li>11 英語教授法の変遷 (5) Communicative Language Teaching (CLT)</li> <li>12 英語科教育教材論 (1) 言語材料についての知識 英語の音声、英語の文法、英語の語彙、英語の文章構成</li> <li>13 英語科教育教材論 (2) 言語活動のための教材開発 リスニング教材、スピーキング教材、リーディング教材、ライティング教材</li> <li>14 英語科教育教材論 (3) 異文化理解のための教材開発 英語教育と異文化理解、異文化理解のための教材開発</li> <li>15 英語科教育教材論 (4) 誤答分析からの知見 中間言語、学習者の言語発達過程、誤答の収集と分類</li> </ol>				

試験等 定期試験
試験のフィードバックの方法 後日、解答を掲示する
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間 テキストの予習（2時間） レポートの作成（2時間） 学修内容の復習（2時間）
必携書（教科書販売） 書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
必携書・参考書（教科書販売以外） 書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
片山嘉雄 編『新・英語科教育の研究』（大修館書店） 文部科学省『中学校学習指導要領解説外国語編』、『高等学校学習指導要領解説 外国語編』 その他、授業時に適宜資料を配付する。
オフィスアワー 質問は随時受け付ける。
連絡先 itoh@m.ndsu.ac.jp
留意事項 一部、演習形式を取り入れて、英語技能そのものの訓練も実施する。

英語科教育特論B		単位数		2単位
授業コード	M2545	科目ナンバリング	開講年度学期	2024年度第2期
担当者氏名	伊藤 豊美			
時間割備考				
授業形態(主)	1 講義			
授業形態(副)				
担当形態	単独			
研究分野(大学院)	専門関連科目			
本授業の概要				
<p>本授業では、英語教育学の基礎基本を修得し、より高度な内容を研究する。特に、文部科学省学習指導要領に基づく具体的な指導技術を高めるとともに、言語(母語並びに外国語)習得の過程や学習者研究の在り方について考察する。</p>				
アクティブラーニングの実施内容		問題解決型学習		
到達目標				対応するディプロマポリシー (1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)
1	英語科教育の背景となる専門知識を修得する。		知識・技能/思考・判断・表現力	
2	実際の教室における高い指導技術を身に付ける。		知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
3	英語そのものの高い運用能力を身に付ける。		知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
4				
5				
成績評価の基準				対応する到達目標の番号
1	授業時の発表(40%)		1/2	
2	レポートの内容(30%)		1/2/3	
3	指導技術の修得状況(30%)		1/2/3	
4				
5				
実務経験のある教員による授業科目				
実務経験の授業への活用方法				
日本語以外の言語による授業				
授業予定一覧				
<p>1 英語科教育方法論(1) コミュニケーションをめぐる考察 コミュニケーションの特質、コミュニケーション能力の定義</p> <p>2 英語科教育方法論(2) 4 技能の実践的指導法①リスニング</p> <p>3 英語科教育方法論(3) 4 技能の実践的指導法②スピーキング</p> <p>4 英語科教育方法論(4) 4 技能の実践的指導法③リーディング</p> <p>5 英語科教育方法論(5) 4 技能の実践的指導法④ライティング</p> <p>6 英語科教育方法論(6) 異文化理解教育への対応</p> <p>7 学習指導要領(1) 歴史的展望-学習指導要領の変遷</p> <p>8 学習指導要領(2) 作成過程と内容構成</p> <p>9 学習指導要領(3) 中学校における学習指導要領のねらい</p> <p>10 学習指導要領(4) 高等学校における学習指導要領のねらい</p> <p>11 学習指導要領(5) 学習指導要領と検定教科書 学習指導要領の法的意義、教科書検定のプロセス</p> <p>12 英語科教育評価論(1) 英語科教育とテスト 英語教育における測定・評価の意義と目的、評価の種類と方法</p> <p>13 英語科教育評価論(2) 各種テスト例と作成上の留意点</p> <p>14 英語科教育学習者論 学習者の実態と要因</p> <p>15 英語科教育教師論 英語教員のミニマム・エッセンシャルと研修</p>				

試験等 定期試験
試験のフィードバックの方法 後日、解答を掲示する
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間 テキストの予習（2時間） レポートの作成（2時間） 学修内容の復習（2時間）
必携書（教科書販売） 書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
必携書・参考書（教科書販売以外） 書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
片山嘉雄 編『新・英語科教育の研究』（大修館書店） 文部科学省『中学校学習指導要領解説外国語編』、『高等学校学習指導要領解説 外国語編』 その他、授業時に適宜資料を配付する。
オフィスアワー 随時質問を受け付ける。
連絡先 itoh@m.ndsu.ac.jp
留意事項 一部、演習形式を取り入れて、英語技能そのものの訓練も実施する。